

奈良県保育士等実態調査 調査結果概要

令和6年3月



調査概要

<保育士等実態調査>

各調査概要については、以下の通り

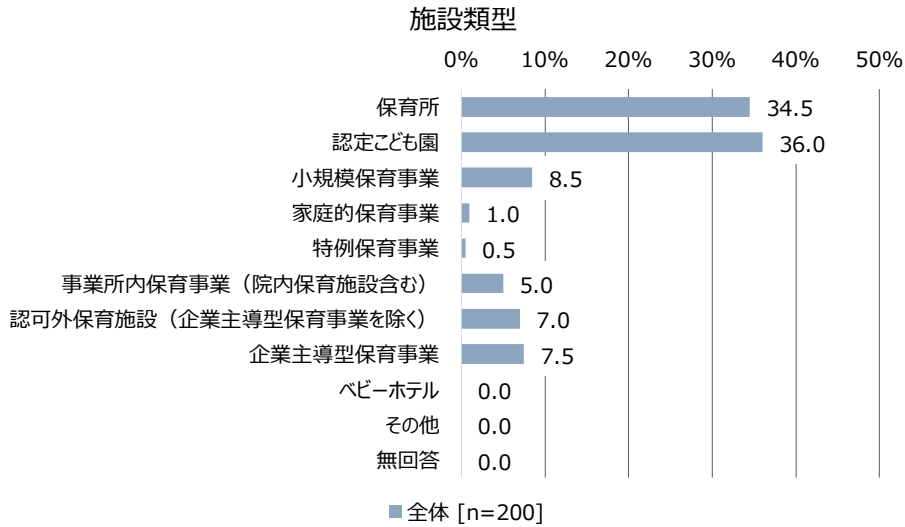
調査名	対象	実施方法	実施期間	有効回答数	回収率
保育施設アンケート調査	県内の全保育施設 393施設 (認可外施設含む)	市町村経由でメールにて調査案内を行い、電子ファイルで回答、メール提出(督促は郵送実施)	2023年8月3日～ 2023年9月30日	200	50.9%
保育士等アンケート調査	県内の全保育施設に勤務する保育士等(常勤・非常勤含む)	保育施設を通じて調査案内を行い、WEBにて回答	2023年8月3日～ 2023年9月27日	2,275	—
保育士養成校アンケート調査	県内の保育士養成校 7校	奈良県よりメール案内、一部養成校は郵送配布。電子ファイルで回答、メール提出	2023年10月3日～ 2023年11月2日	7	100.0%
保育士養成校学生アンケート調査	県内の保育士養成校に通う学生	各養成校より案内を行い、WEBにて回答	2023年10月3日～ 2023年10月27日	536	—

※割合を表す数値については、四捨五入により小数点以下第1位までの表示としており、見かけの合計値が100%にならない場合がある。

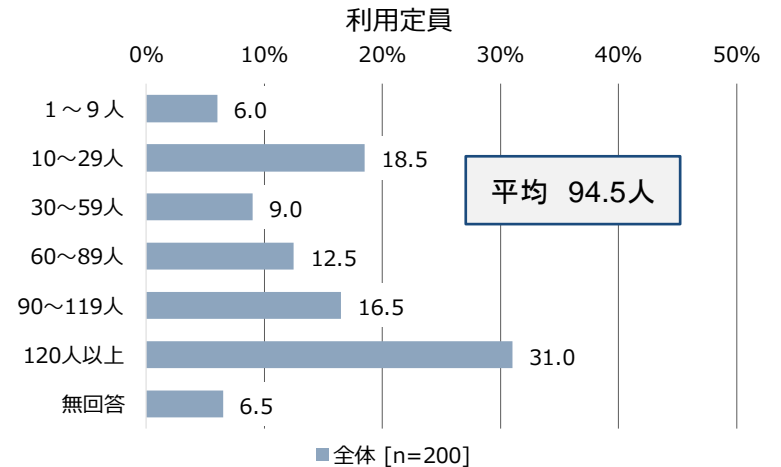
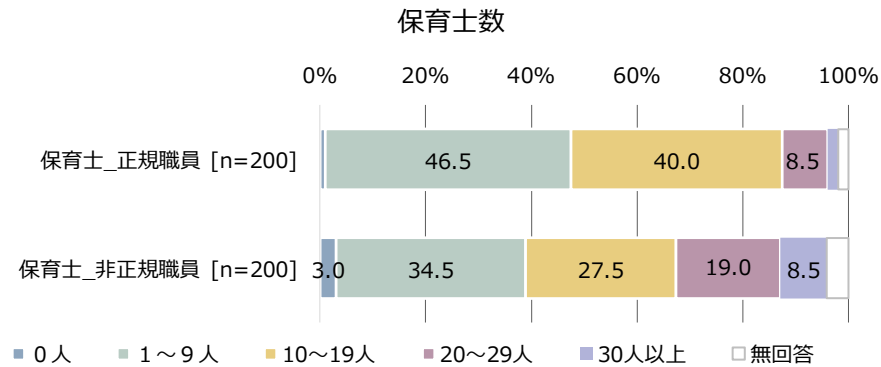
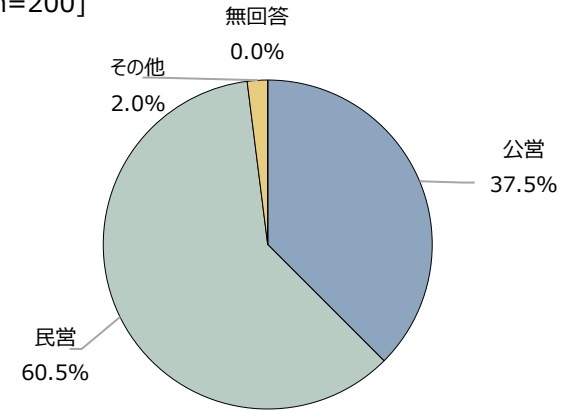
※保育士等実態調査のクロス集計において、n数が10件未満のものについては、各選択肢の回答をxと表示している。

基礎データ(保育施設)

- 回答のあった保育施設の基礎データは以下の通りである。
- 保育士(保育教諭)の正規職員は平均で10.4人、非正規職員は平均で7.7人となっている。
- 正規職員の平均勤続年数は、10.6年となっている。



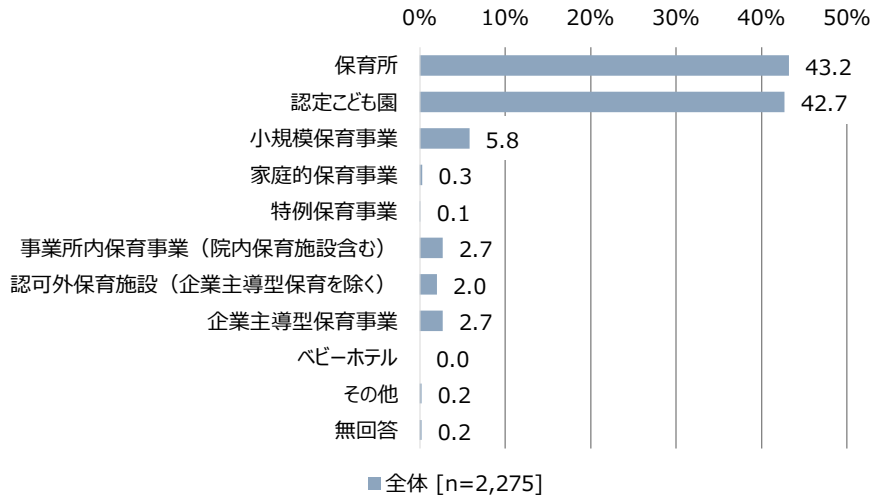
施設の運営主体 [n=200]



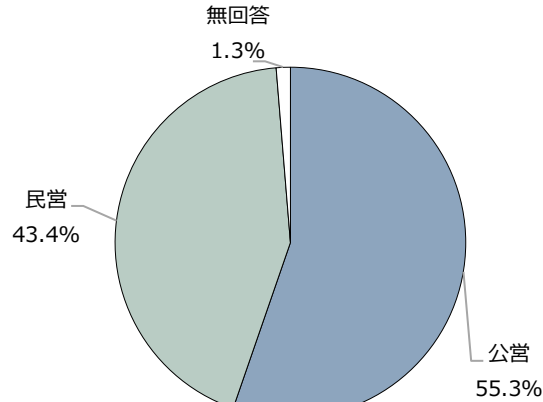
基礎データ(保育士等)

● 保育士等調査の回答者における、基礎データは以下の通りである。

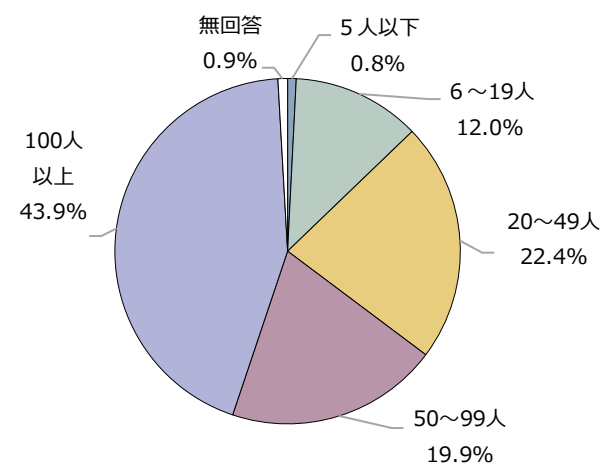
勤務施設の類型



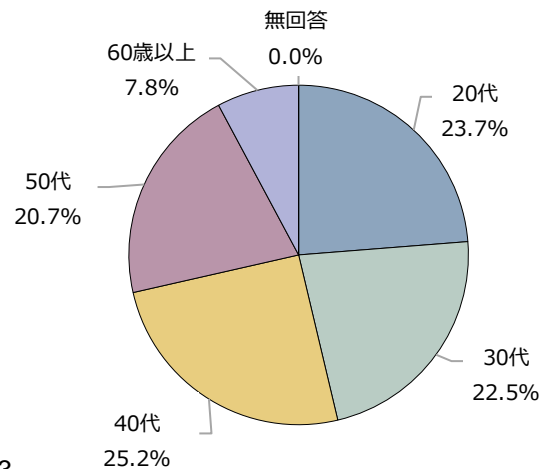
施設の運営主体[n=2,275]



勤務施設の規模 (定員) [n=2,275]

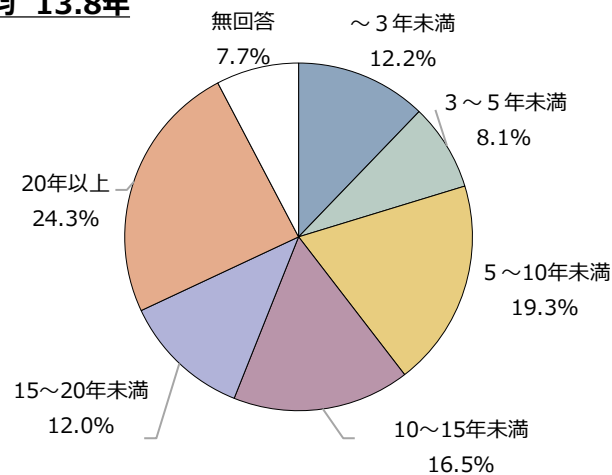


年齢[n=2,275]

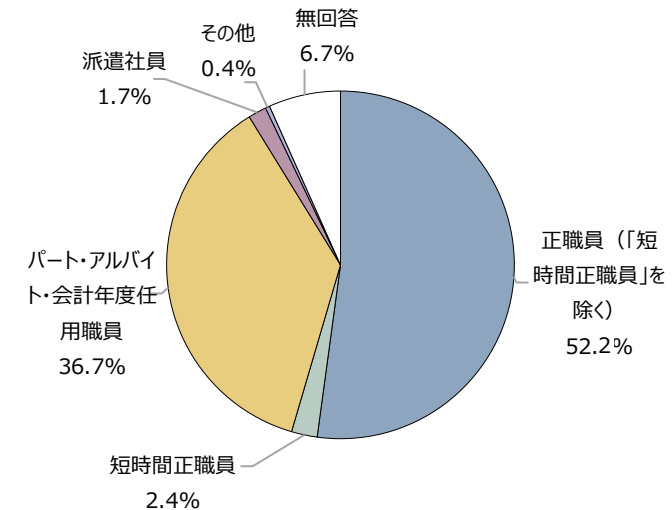


保育士としての通算就業年数[n=2,275]

平均 13.8年



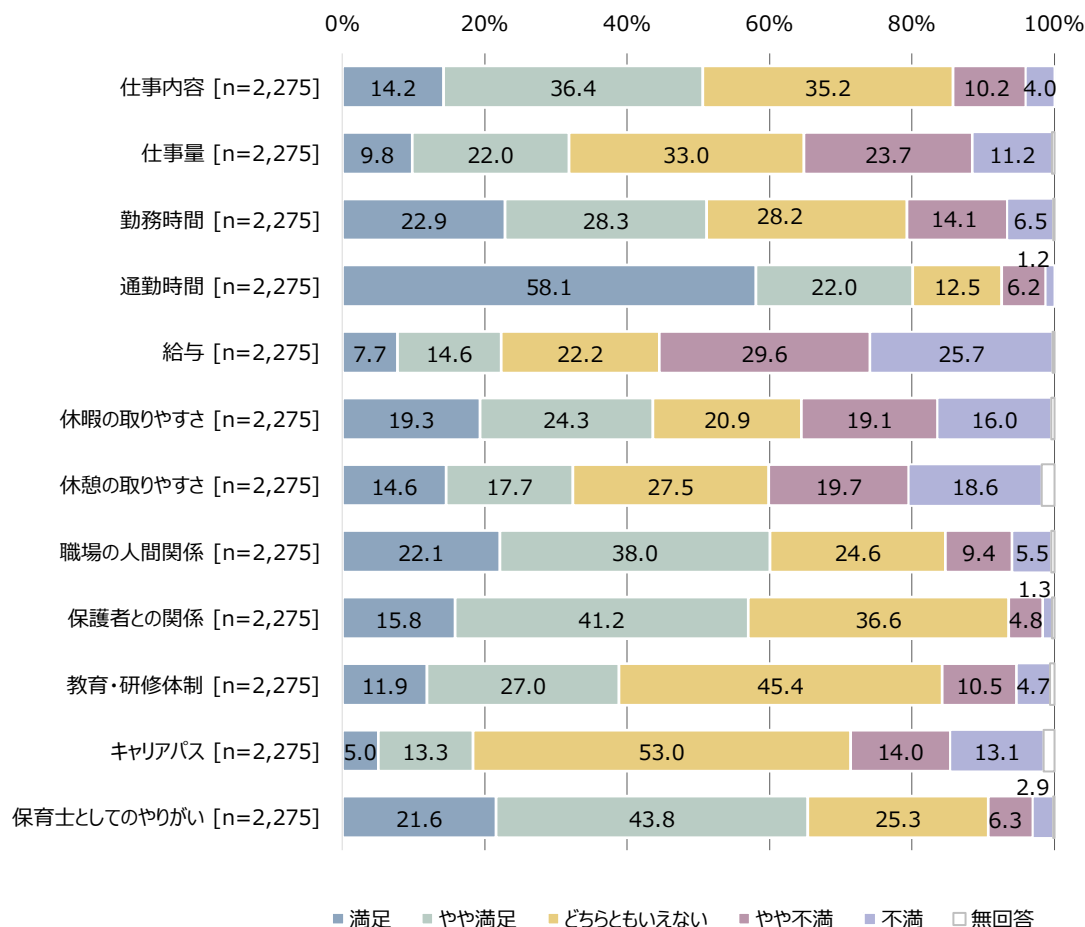
雇用形態[n=2,275]



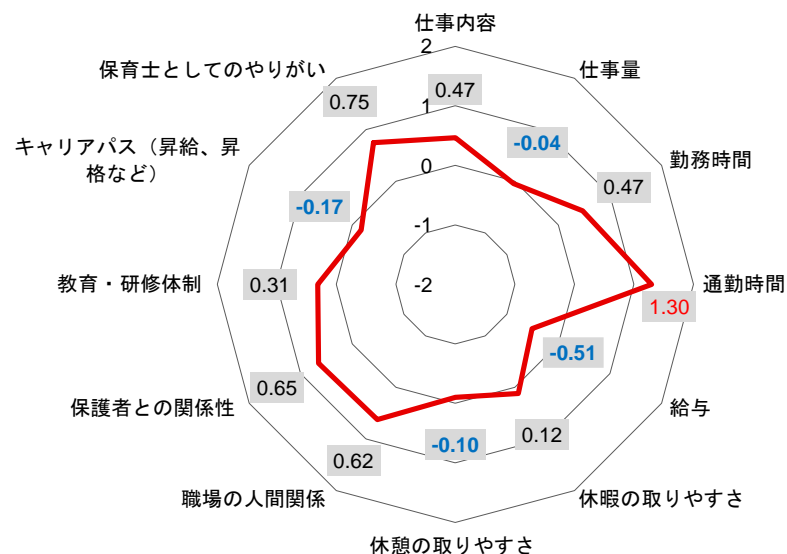
保育現場の満足度＜保育士等調査＞

- 満足度については、「通勤時間」において、「満足」、「やや満足」の合計が最も高く、「キャリアパス」、「給与」で低くなっている。
 - 平均値※をみると、「通勤時間は」1点を超えている一方で、「給与」、「キャリアパス」、「休憩の取りやすさ」、「仕事量」で0点を下回っている。
- ※「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化しているため、0点が中間値となる

保育現場の満足度



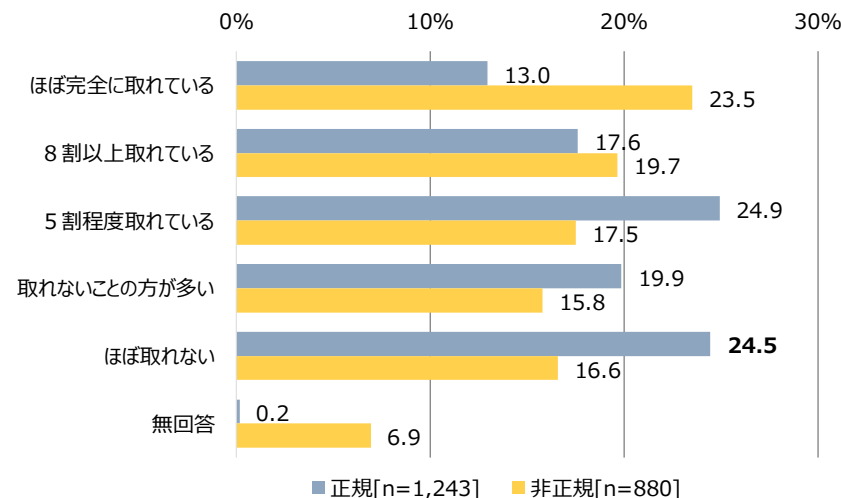
＜平均値によるレーダーチャート（単位：点）＞



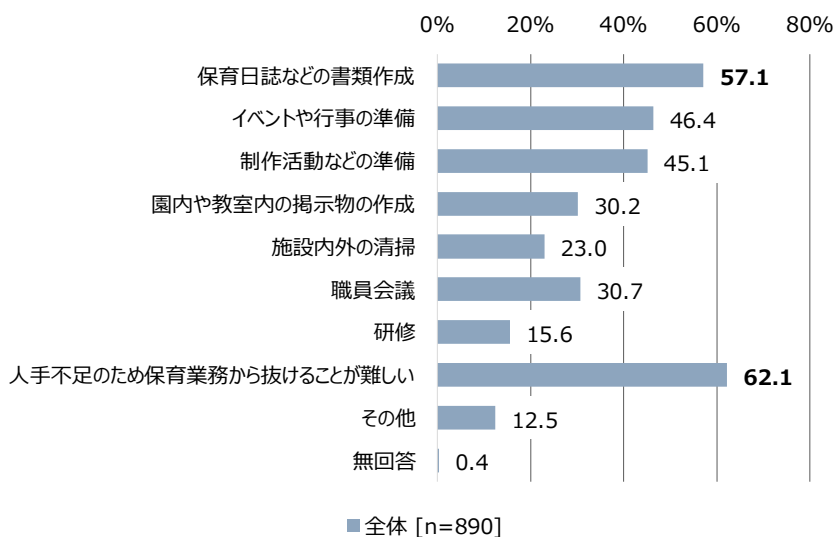
保育士等の就労環境①(保育士等調査:休憩の取得状況)

- 休憩の取得状況は、「取れないことの方が多い」(18.0%)、「ほぼ取れない」(21.1%)を合わせると4割近くになっている。
 - 雇用形態別にみると、正規では「ほぼ取れない」が非正規に比べ高く、「ほぼ取れない」と「取れないことの方が多い」の合計が4割を超えている。
- 休憩が取れない主な理由としては、「人手不足のため保育業務から抜けることが難しい」、「保育日誌などの書類作成」が上位となっている。
 - 通算就業年数別にみると、3～5年未満では「イベントや行事の準備」、3～10年未満では「制作活動などの準備」、15～20年未満では「研修」が他に比べ高くなっている。
 - 運営主体別にみると、公営では、民営に比べ割合が高いものが多いが、特に「職員会議」、「研修」が高く、民営では「人手不足のため保育業務から抜けることが難しい」、「施設内外の清掃」が公営に比べ高くなっている。

休憩の取得状況 (雇用形態別)



休憩が取得できない主な理由 (複数選択)



休憩が取得できない主な理由 (複数選択)

		合計 (n=)	作成保育日誌などの書類	備イベントや行事の準備	制作活動などの準備	園内や教室内の掲示物の作成	施設内外の清掃	職員会議	研修	が難しい業務から抜けるため保育	人手不足のため保育	その他	無回答
通算就業年数	～3年未満	84	63.1	47.6	48.8	31.0	17.9	27.4	13.1	57.1	7.1	1.2	
	3～5年未満	71	62.0	60.6	56.3	42.3	26.8	35.2	11.3	63.4	5.6	0.0	
	5～10年未満	159	62.3	53.5	54.1	37.1	24.5	34.0	17.6	67.3	7.5	0.0	
	10～15年未満	138	58.0	44.9	47.8	33.3	27.5	30.4	12.3	57.2	13.8	0.0	
	15～20年未満	119	61.3	48.7	42.0	31.9	23.5	34.5	23.5	64.7	13.4	0.8	
	20年以上	252	48.0	36.9	34.9	20.6	19.8	27.0	13.5	61.1	17.5	0.8	
運営主体	公営	424	63.7	54.0	51.9	36.3	19.6	40.6	25.7	59.0	12.0	0.0	
	民営	456	50.7	38.8	37.9	24.1	25.9	21.5	6.6	65.1	13.2	0.9	

保育士等の就労環境①-1 (保育士等調査: 休憩の取得状況別満足度、今後の就業意向)

- 休憩の取得状況別に満足度をみると、「ほぼ完全に取れている」場合、「通勤時間」に加え、「勤務時間」「休暇の取りやすさ」「休憩の取りやすさ」「職場の人間関係」「保育士としてのやりがい」が1点を超えている。一方で、休憩の取得が「5割程度取れている」以下になると、0点※を下回る項目が多くなっている。

※「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化しているため、0点が中間値となる。

- 休憩の取得状況別に今後の就業意向をみると、「ほぼ完全に取れている」場合、「現在の施設で保育士として働きたい」が高くなっている。

休憩の取得状況別の満足度 (平均値)

(点)

		合計 (n=)	① 仕事 内容	② 仕事 量	③ 勤務 時間	④ 通勤 時間	⑤ 給与	⑥ 休 暇 の 取 り やす さ	⑦ 休 暇 の 取 り やす さ	⑧ 職 場 の 人 間 関 係	⑨ 保 護 者 と の 関 係 性	⑩ 教 育 ・ 研 修 体 制	⑪ キ ャ リ ア パ ス (昇 給 、 昇 格 な ど)	⑫ 保 育 士 と し て の や り が い
全体		2,275	0.47	-0.04	0.47	1.30	-0.51	0.12	-0.10	0.62	0.65	0.31	-0.17	0.75
休憩 の 取 得 状 況	ほぼ完全に取れている	394	0.88	0.67	1.15	1.50	-0.17	1.06	1.48	1.04	0.93	0.61	0.05	1.06
	8割以上取れている	420	0.60	0.16	0.77	1.28	-0.46	0.31	0.62	0.80	0.73	0.49	-0.07	0.82
	5割程度取れている	507	0.50	-0.13	0.36	1.25	-0.59	-0.12	-0.30	0.57	0.63	0.31	-0.15	0.75
	取れないことの方が多い	410	0.30	-0.33	0.21	1.21	-0.55	-0.16	-0.68	0.52	0.56	0.25	-0.17	0.67
	ほぼ取れない	480	0.09	-0.54	-0.11	1.25	-0.84	-0.40	-1.36	0.24	0.47	-0.03	-0.48	0.50

休憩の取得状況別の今後の就業意向

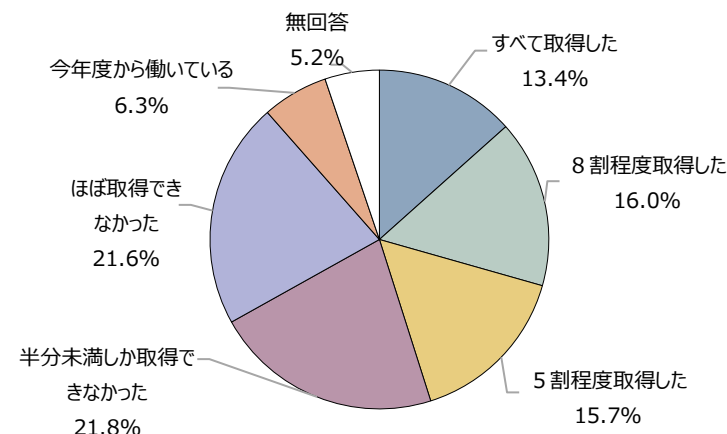
(%)

		合計 (n=)	続 け た い	現 在 の 施 設 で 働 き 保 育 士 と し て 働 き た い	他 施 設 で 保 育 士 と し て 働 き た い	保 育 士 以 外 の 仕 事 で 働 き た い	仕 事 は し な い	未 定	無 回 答
全体		2,275	50.8	9.8	14.9	0.7	23.7	0.0	
休憩 の 取 得 状 況	ほぼ完全に取れている	394	62.9	7.4	10.9	0.5	18.3	0.0	
	8割以上取れている	420	54.0	7.9	13.6	1.2	23.1	0.2	
	5割程度取れている	507	51.9	10.7	14.8	0.4	22.3	0.0	
	取れないことの方が多い	410	47.1	9.0	16.3	0.2	27.3	0.0	
	ほぼ取れない	480	39.2	14.4	19.6	1.0	25.8	0.0	

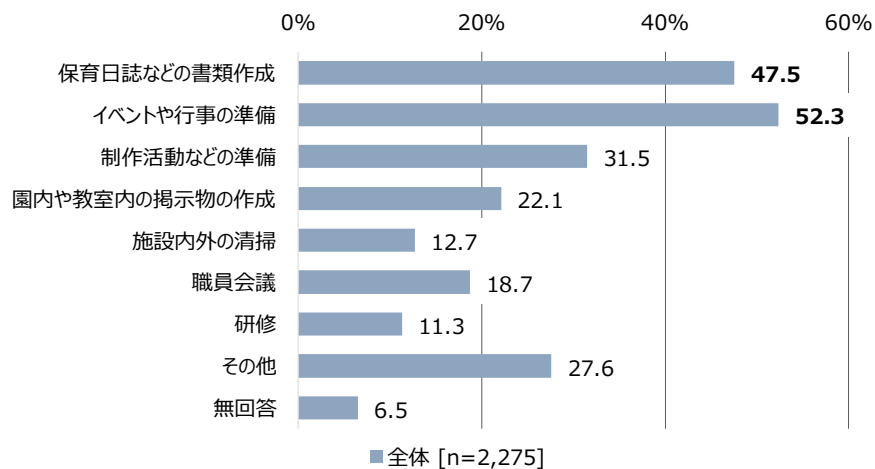
保育士等の就労環境②(保育士等調査:有給休暇取得、時間外勤務)

- 令和4年度の有給休暇の取得状況においては、「ほぼ取得できなかった」「半分未満しか取得できなかった」の合計が4割を超えている。
- 令和4年度の1週あたりの平均的な時間外勤務は週5時間以内が約7割。
- 時間外勤務が発生する主な理由は、「イベントや行事の準備」、「保育日誌などの書類作成」が上位となっている。
 - ▶ 通算就業年数別にみると、5年未満では「制作活動などの準備」が5年以上に比べ高く、「保育日誌などの書類作成」は、5年未満と15～20年未満において他に比べ高くなっている。
 - ▶ 運営主体別にみると、全体的に公営の割合が民営に比べ高いが、特に「保育日誌などの書類作成」、「イベントや行事の準備」、「制作活動などの準備」、「園内や教室内の掲示物の作成」では、民営より約20%高くなっている。

有給休暇の取得状況[n=2,275]



時間外勤務が発生する主な理由 (複数選択)



時間外勤務が発生する主な理由 (複数選択)

		合計 (n=)	作成 保育 日誌 など の 書 類	備 イ ベ ン ト や 行 事 の 準 備	制作 活 動 な ど の 準 備	物 の 作 成 園 内 や 教 室 内 の 掲 示	施設 内 外 の 清 掃	職員 会 議	研修	その他	無 回 答	(%)
通算 就業 年 数	～3年未満	277	55.6	53.8	38.3	23.1	12.3	16.2	13.0	19.5	6.9	
	3～5年未満	185	51.4	60.5	43.8	31.4	14.1	11.9	9.2	24.3	7.0	
	5～10年未満	438	46.3	57.1	32.0	22.1	12.3	21.2	12.3	25.1	6.8	
	10～15年未満	375	45.1	54.1	32.8	23.5	14.4	18.7	10.7	25.1	6.9	
	15～20年未満	272	54.0	53.3	32.4	24.6	13.2	22.8	11.4	26.1	6.6	
	20年以上	552	44.2	45.5	24.5	17.8	12.3	18.5	12.0	37.9	4.9	
運営 主 体	公営	1,258	56.1	63.2	39.9	30.6	14.1	25.0	14.5	21.7	3.7	
	民営	988	36.6	38.5	20.1	10.9	10.8	10.6	7.6	35.1	9.9	

保育士等の就労環境②-1 (保育士等調査:有給休暇の取得状況別満足度)

- 有給休暇の取得状況別に満足度をみると、「すべて取得した」場合、「通勤時間」に加え、「休暇の取りやすさ」で1点を超えている。一方、有給休暇の取得が「半分未満しか取得できなかった」以下になると、0点※を下回る項目が多くなっている。

※「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化しているため、0点が中間値となる。

有給休暇の取得状況別の満足度 (平均値)

(点)

		合計 (n=)	① 仕事内容	② 仕事量	③ 勤務時間	④ 通勤時間	⑤ 給与	⑥ 休暇の取りやすさ	⑦ 休憩の取りやすさ	⑧ 職場の人間関係	⑨ 保護者との関係性	⑩ 教育・研修体制	⑪ キャリアパス (昇給、昇格など)	⑫ 保育士としてのやりがい
全体		2,275	0.47	-0.04	0.47	1.30	-0.51	0.12	-0.10	0.62	0.65	0.31	-0.17	0.75
有給休暇の取得状況	すべて取得した	305	0.62	0.34	0.86	1.36	-0.31	1.01	0.46	0.88	0.81	0.42	-0.09	0.84
	8割程度取得した	363	0.60	0.26	0.86	1.30	-0.38	0.71	0.17	0.68	0.73	0.43	-0.14	0.82
	5割程度取得した	358	0.53	-0.03	0.66	1.34	-0.51	0.42	0.03	0.64	0.68	0.31	-0.11	0.86
	半分未満しか取得できなかった	495	0.31	-0.27	0.26	1.30	-0.71	-0.30	-0.43	0.51	0.58	0.21	-0.23	0.72
	ほぼ取得できなかった	491	0.22	-0.53	-0.16	1.17	-0.73	-0.92	-0.65	0.36	0.48	0.16	-0.37	0.51
	今年度から働いている	144	0.93	0.51	0.83	1.45	-0.04	0.50	0.43	0.97	0.91	0.63	0.20	1.04

保育士等の就労環境③(保育施設調査:給与面)

● 正規職員の待遇

- 保育施設調査において、初任保育士の平均給与は270.3万円、保育士の正規職員の平均給与は378.9万円となっている。
- 運営主体別に正規職員の保育士(常勤)の年収をみると、平均で公営423.0万円、民営365.4万円となっている。

令和4年の正規職員の保育士(常勤)の年収

		合計 (n=)	(%)							無 回 答	平均 値 (万 円)
			2 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	2 5 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	3 5 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 以 上			
全体		194	2.1	2.6	7.7	11.9	16.0	29.4	30.4	378.9	
運 営 主 体	公営	75	1.3	0.0	1.3	6.7	5.3	30.7	54.7	423.0	
	民営	116	2.6	2.6	12.1	14.7	22.4	26.7	19.0	365.4	

保育士等の就労環境④(保育士等調査:給与面)

- 保育士等調査において、令和4年の年収は、「200～300万円未満」(32.1%)の割合が最も高くなっている。

- 年代別にみると、20代では「200～300万円未満」の割合が5割を超え、30代以上に比べ高くなっている。
- 通算就業年数別にみると、10年未満までは「200～300万円未満」の割合が3割以上を占め、20年以上では、「500～700万円未満」が2割を超えている。
- 雇用形態別にみると、正規でも「200～300万円未満」、「300～400万円未満」で約6割を占めている。
- 運営主体別にみると、公営民営ともに、「200～300万円未満」が最も高くなっている。公営では、「400～500万円未満」の割合が民営に比べ高くなっている。

		令和4年の年収								(%)
		合計 (n=)	1 0 3 万 円 未 満	2 1 0 0 0 3 万 円 未 満	3 2 0 0 0 0 万 円 未 満	4 3 0 0 0 0 万 円 未 満	5 4 0 0 0 0 万 円 未 満	7 5 0 0 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 以 上	無 回 答
全体		2,275	10.5	20.7	32.1	18.3	9.6	6.9	1.3	0.5
年代	20代	540	5.9	22.6	51.9	17.0	1.9	0.0	0.0	0.7
	30代	513	9.7	19.5	29.2	29.0	9.9	2.3	0.0	0.2
	40代	572	11.9	20.1	23.4	17.7	14.3	10.5	1.0	1.0
	50代	472	10.6	16.1	25.0	12.7	14.2	16.7	4.7	0.0
	60歳以上	178	21.9	32.6	27.0	7.9	5.1	3.9	1.1	0.6
通算就業年数	～3年未満	277	14.4	28.2	44.4	9.0	1.1	0.7	0.7	1.4
	3～5年未満	185	13.5	23.8	46.5	15.1	0.5	0.0	0.0	0.5
	5～10年未満	438	10.7	22.4	36.3	23.3	6.4	0.7	0.0	0.2
	10～15年未満	375	12.5	23.7	29.6	21.3	10.1	2.1	0.0	0.5
	15～20年未満	272	7.7	20.6	28.3	21.0	15.1	7.0	0.0	0.4
	20年以上	552	6.9	11.6	22.5	17.9	16.3	20.5	4.2	0.2
雇用形態	正規	1,243	1.3	9.3	31.0	28.4	15.5	11.7	2.2	0.6
	非正規	880	24.0	37.3	33.2	4.2	0.9	0.1	0.0	0.3
運営主体	公営	1,258	5.9	19.5	32.6	18.5	12.0	9.3	1.8	0.4
	民営	988	15.7	22.1	31.8	18.2	6.8	4.1	0.7	0.6

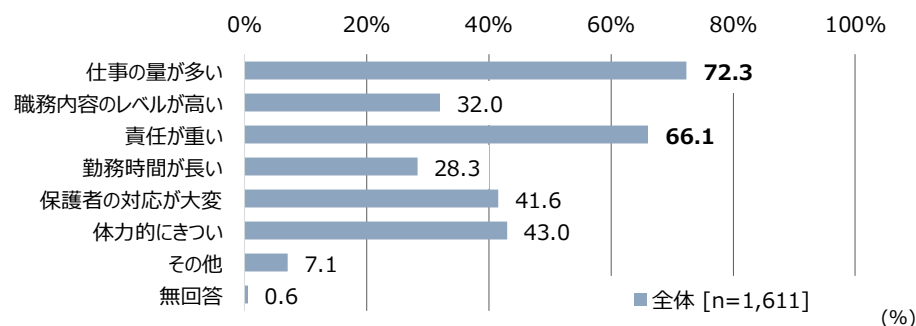
保育士等の就労環境⑤(保育士等調査:給与面)

- 勤務内容に比へた給与の妥当性は、「安いと思う」、「やや安いと思う」の合計が7割を超えている。
 - 年代別にみると、20代、30代において、「安いと思う」が40代以上に比べ高くなっている。
 - 通算就業年数別にみると、3～20年未満において、「安いと思う」が、3年未満、20年以上に比べ高くなっている。
- 給与が勤務内容に比べて安いと思う理由は、「仕事の量が多い」、「責任が重い」が上位。
 - 年代別にみると、40代以下では、「仕事の量が多い」、「職務内容のレベルが高い」、「保護者の対応が大変」が50代以上に比べ高くなっている。
 - 運営主体別にみると、公営では、「仕事の量が多い」、「責任が重い」、「勤務時間が長い」、「保護者の対応が大変」、「体力的にきつい」が民営に比べ高くなっている。

勤務内容に比へた給与の妥当性 (%)

		合計 (n=)	高い と思う	やや 高い と思う	妥当 と思う	やや 安い と思う	安い と思う	わ か ら な い	無 回 答
全体		2,275	0.8	2.2	23.0	30.3	40.5	3.0	0.2
年代	20代	540	0.9	2.6	15.2	30.7	47.0	3.3	0.2
	30代	513	0.2	1.8	19.1	30.6	47.4	1.0	0.0
	40代	572	1.0	1.9	29.4	27.1	37.2	3.0	0.3
	50代	472	1.3	2.1	23.9	32.0	36.0	4.4	0.2
	60歳以上	178	0.0	2.8	34.8	33.7	23.6	4.5	0.6
通算就業年数	～3年未満	277	0.7	5.8	22.7	30.0	35.4	5.4	0.0
	3～5年未満	185	2.7	0.5	19.5	24.9	48.6	3.2	0.5
	5～10年未満	438	0.2	2.3	19.9	31.1	44.7	1.8	0.0
	10～15年未満	375	0.5	1.1	22.7	31.5	42.1	2.1	0.0
	15～20年未満	272	0.7	1.1	23.2	30.5	42.3	1.8	0.4
	20年以上	552	0.7	1.8	26.6	32.6	33.7	4.3	0.2

給与が勤務内容に比へて安いと感じている主な理由 (複数選択)



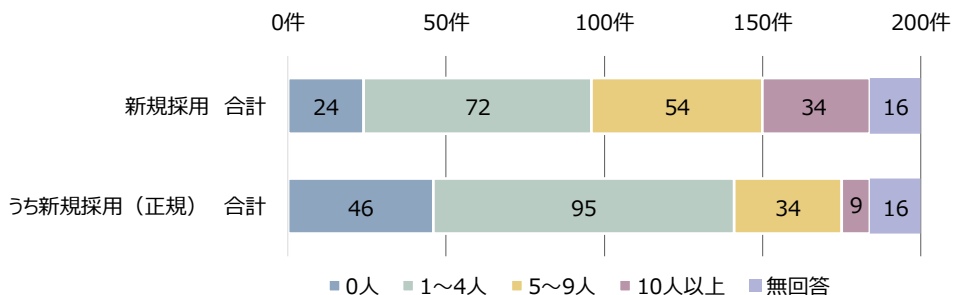
		合計 (n=)	い し じ の 量 が 多 い	レ 職 務 内 容 の レ ベ ル が 高 い	責 任 が 重 い	い 勤 務 時 間 が 長 い	保 護 者 の 対 応 が 大 変	い 体 力 的 に き つ い	そ の 他	無 回 答
年代	20代	420	80.0	33.1	68.8	33.6	41.7	40.7	4.5	0.5
	30代	400	74.5	34.3	68.5	28.0	48.3	42.3	7.0	0.5
	40代	368	73.1	37.0	70.1	30.2	46.2	48.9	7.3	0.5
	50代	321	64.8	25.9	61.7	25.2	34.9	40.8	8.7	0.3
	60歳以上	102	52.9	19.6	45.1	10.8	19.6	40.2	12.7	2.9
	運営主体	公営	927	76.7	32.1	70.4	31.7	48.9	45.0	5.0
民営		669	66.5	31.7	60.1	23.0	31.7	39.6	10.3	0.9

保育士等の採用・退職、定着①

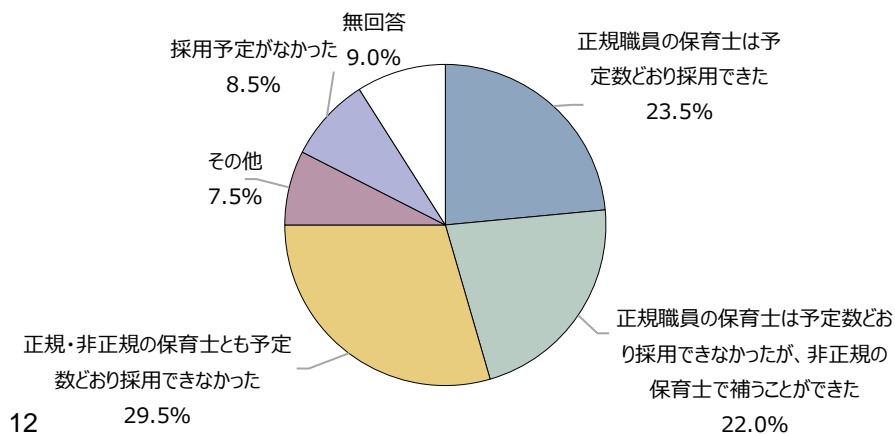
< 保育施設調査 >

- 保育士等の採用状況については、以下の通り。過去3年間の新規採用者数は1施設当たり6.3人、うち正規職員は1施設当たり、3.3人となっている。
- 令和2～4年度で、「正規・非正規の保育士とも予定数通り採用できなかった」施設が約3割となっている。

令和2～4年度の新規採用数



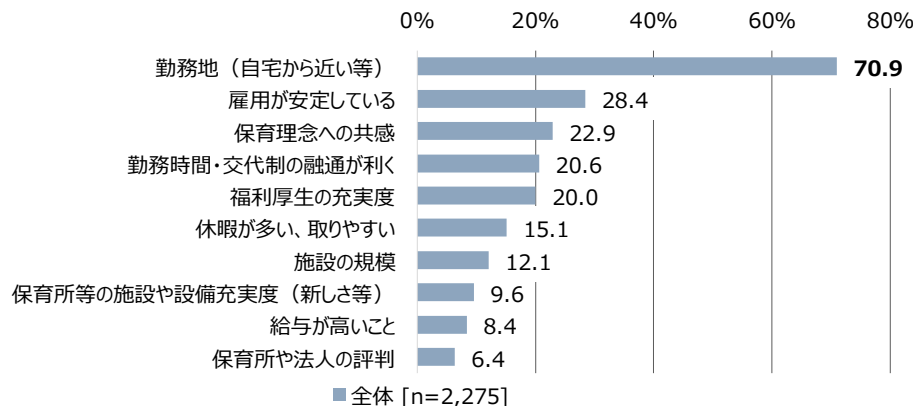
令和2～4年度の保育士の採用状況 [n=200]



< 保育士等調査 >

- 現在の就業先に決めた理由は、「勤務地（自宅から近い等）」が約7割と最も高くなっている。
 - 年代別にみると、20代、30代では「福利厚生の実度」が40代以上に比べ高くなっている。

現在の就業先に決めた理由（複数選択：上位10項目）



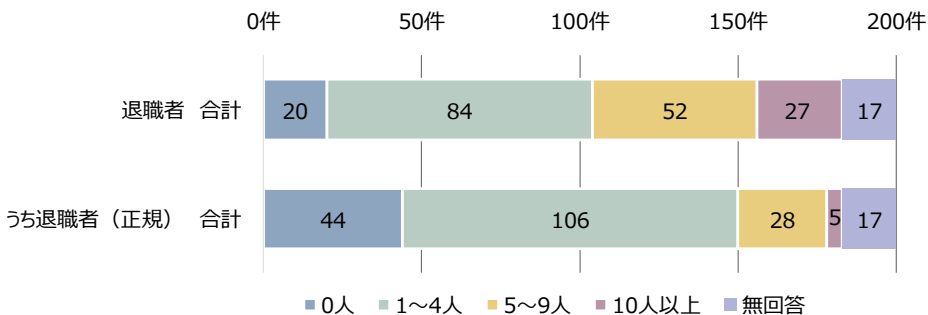
年代	合計 (n=)	勤務地（自宅から近い等）	雇用が安定している	保育理念への共感	勤務時間・交代制の融通が利く	福利厚生の実度	休暇が多い、取りやすい	施設の規模	保育所等の施設や設備充実度（新しさ等）	給与が高いこと	保育所や法人の評判
		20代	540	67.8	25.0	27.4	11.3	27.6	18.5	13.5	15.0
30代	513	72.9	25.9	16.6	23.2	23.6	18.5	12.9	8.6	9.6	6.4
40代	572	71.7	30.6	22.4	23.3	16.1	14.2	11.5	6.8	11.2	3.8
50代	472	71.0	32.4	25.6	22.5	16.3	10.8	11.0	8.7	5.3	7.8
60歳以上	178	72.5	27.5	22.5	27.5	9.6	9.0	10.7	7.3	3.9	4.5

保育士等の採用・退職、定着②

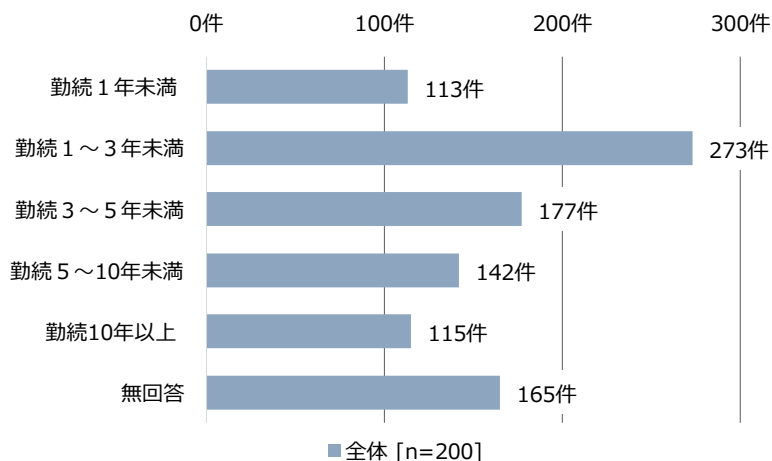
<保育施設調査>

- 過去3年の退職者数は以下の通り。1施設当たり5.4人となっており、うち正規職員は1施設当たり2.5人となっている。
- 経験年数別の退職者数では、「勤続1～3年未満」が他に比べ多くなっている。

令和2～4年度の退職者数



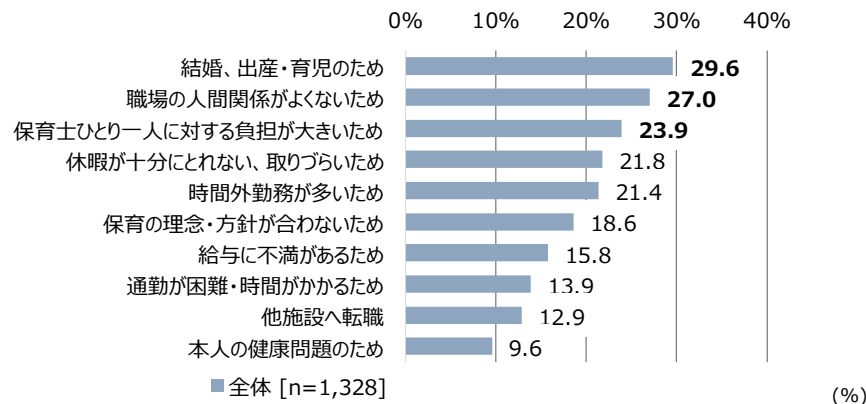
令和2～4年度に退職した保育士の勤続年数



<保育士等調査>

- 6割近くが退職経験があり、退職した理由は、「結婚、出産・育児のため」、「職場の人間関係がよくないため」、「保育士ひとり一人に対する負担が大きい」とが上位。
- 年代別にみると、20代、30代では「職場の人間関係がよくないため」、「時間外勤務が多いため」、「休暇が十分に取れない、取りづらいため」、「保育士ひとり一人に対する負担が大きい」とが40代以上に比べ高く、30代では「給与に不満があるため」も他に比べ高くなっている。

退職した理由（複数選択：上位10項目）



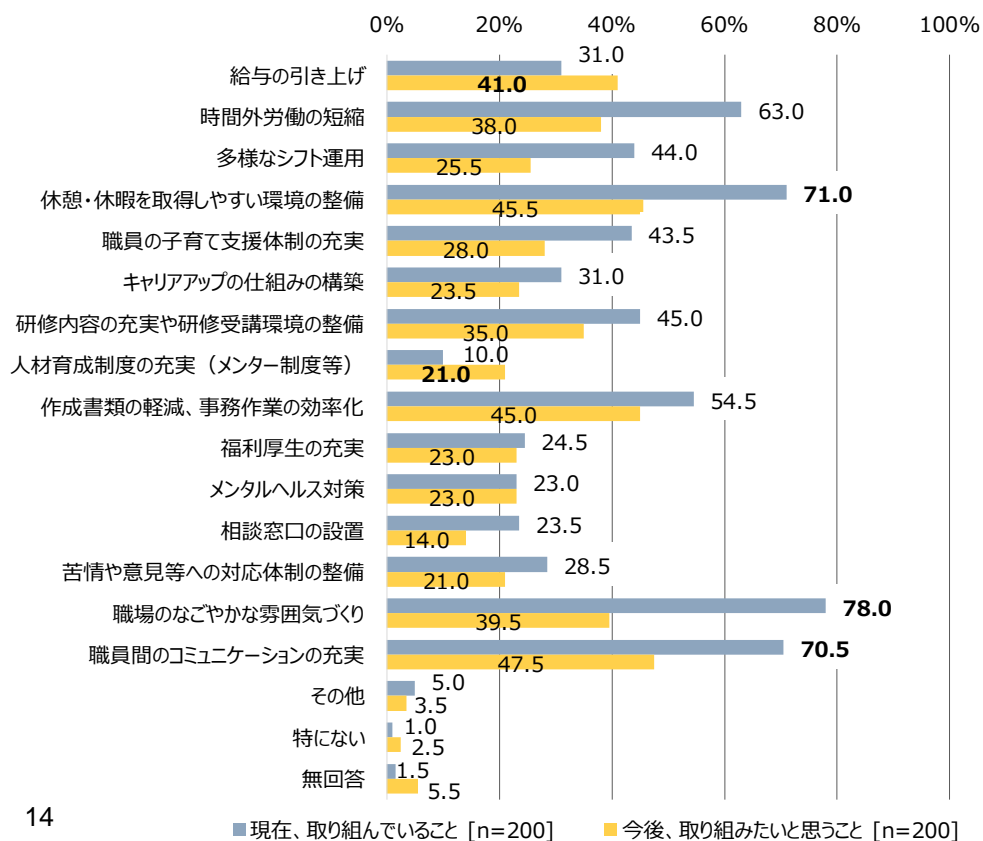
年代	合計 (n=)	結婚、出産・育児のため	職場の人間関係がよくないため	保育士ひとり一人に対する負担が大きい	休暇が十分に取れない、取りづらいため	時間外勤務が多い	保育の理念・方針が合わないため	給与に不満がある	通勤が困難・時間がかかるため	他施設へ転職	本人の健康問題のため
20代	154	16.2	44.2	41.6	40.3	40.9	26.0	16.2	13.6	11.0	21.4
30代	362	32.3	31.5	30.4	28.2	29.0	21.8	22.1	16.3	16.0	8.8
40代	405	33.3	23.5	20.5	17.5	18.0	15.6	16.0	13.1	14.3	6.2
50代	282	31.9	22.3	18.1	16.7	12.1	20.2	12.8	12.8	9.6	8.5
60歳以上	125	20.8	15.2	7.2	5.6	7.2	6.4	3.2	12.8	8.8	11.2

保育士等の採用・退職、定着③

<保育施設調査>

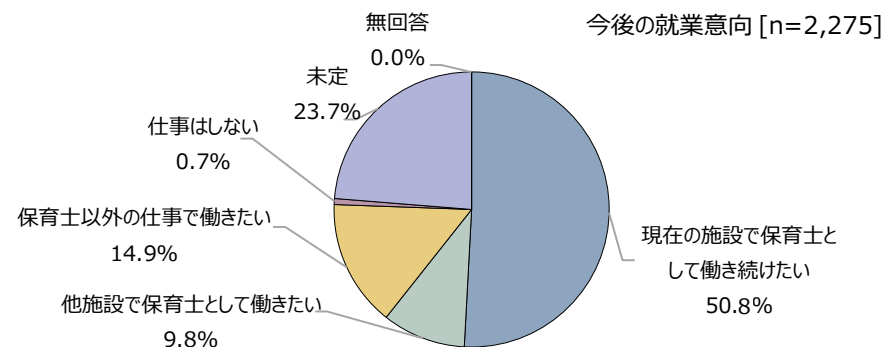
- 職場定着のための取組として、現在行っていることは「職場のなごやかな雰囲気づくり」、「休憩・休暇を取得しやすい環境の整備」、「職員間のコミュニケーションの充実」、今後は「職員間のコミュニケーションの充実」、「休憩・休暇を取得しやすい環境の整備」、「作成書類の軽減、事務作業の効率化」が上位となっている。
- また、「給与の引き上げ」、「人材育成制度の充実(メンター制度等)」は現在の取組より、今後取り組みたいと考えている施設が多い。

現在職場定着のために取り組んでいること、今後取り組みたいこと



<保育士等調査>

- 今後の就業意向では、「現在の施設で保育士として働き続けたい」が約半数となっている。
- 20代、30代、また通算就業年数5～10年未満では、「保育士以外の仕事で働きたい」の割合が他に比べ高く、通算就業年数3～5年未満では、「現在の施設で保育士として働き続けたい」が他に比べ低くなっている。

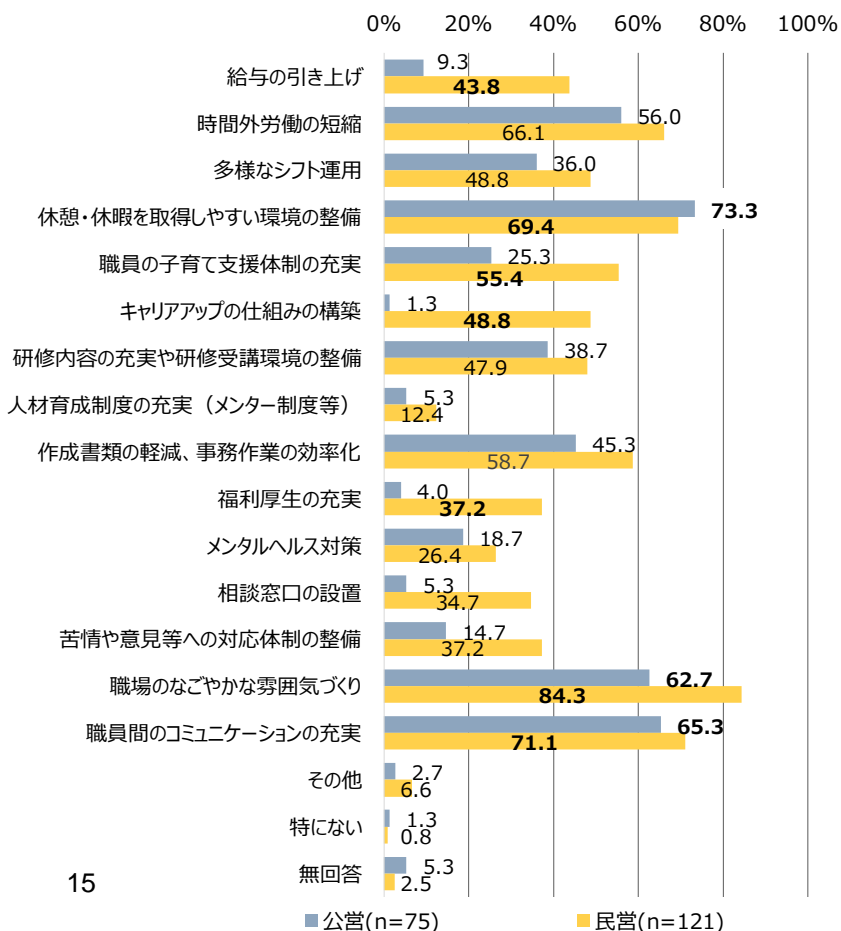


		合計 (n=)	現在の施設で働き続けたい (%)	他施設で働きたい (%)	保育士以外の仕事で働きたい (%)	仕事はしない (%)	未定 (%)	無回答 (%)
年代	20代	540	40.6	14.3	19.6	0.2	25.2	0.2
	30代	513	46.4	10.3	19.5	0.4	23.4	0.0
	40代	572	53.7	9.8	13.3	0.3	22.9	0.0
	50代	472	60.4	6.4	10.4	1.3	21.6	0.0
	60歳以上	178	59.6	3.9	5.1	2.8	28.7	0.0
通算就業年数	～3年未満	277	52.7	12.6	13.0	0.4	21.3	0.0
	3～5年未満	185	37.8	15.1	14.1	0.5	31.9	0.5
	5～10年未満	438	45.2	10.5	22.1	0.5	21.7	0.0
	10～15年未満	375	48.3	9.6	16.5	0.5	25.1	0.0
	15～20年未満	272	56.3	9.9	11.4	0.0	22.4	0.0
	20年以上	552	57.2	5.8	11.2	1.6	24.1	0.0

保育士等の採用・退職、定着③-1(保育施設調査:運営主体別、採用状況別の職場定着の取組)

- 職場定着のために現在取り組んでいることは、公民ともに「休憩・休暇を取得しやすい環境の整備」、「職員間のコミュニケーションの充実」、「職場のなごやかな雰囲気づくり」が上位に挙げられている。そのほか、特に民営では「給与の引き上げ」、「職員の子育て支援体制の充実」、「キャリアアップの仕組みの構築」、「福利厚生 of 充実」は公営に比べて取り組んでいる割合が高くなっている。
- 採用状況別にみると、「正規・非正規の保育士とも予定数どおり採用できなかった」施設では、特に「キャリアアップの仕組みの構築」、「人材育成制度の充実(メンター制度等)」、「福利厚生 of 充実」、「メンタルヘルス対策」、「相談窓口の設置」、「苦情や意見等への対応体制の整備」が他に比べ低く、3割を下回っている。

現在職場定着のために取り組んでいること(運営主体別)



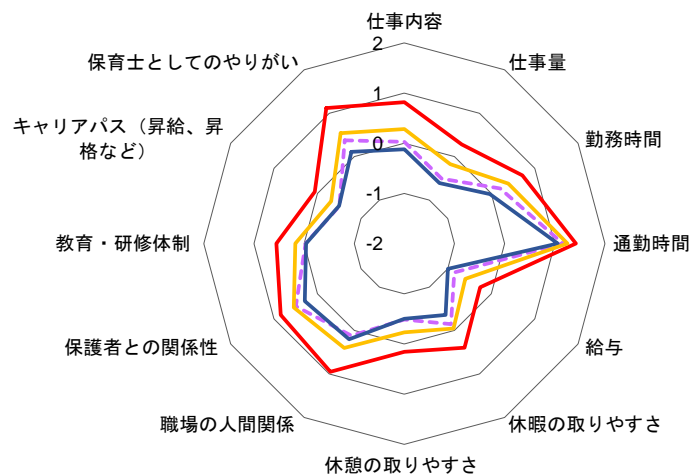
現在職場定着のために取り組んでいること(採用状況別)

採用状況別	合計(n=)	給与の引き上げ	時間外労働の短縮	多様なシフト運用	休憩・休暇を取得しやすい環境の整備	職員の子育て支援体制の充実	キャリアアップの仕組みの構築	研修内容の充実や研修受講環境の整備	人材育成制度の充実(メンター制度等)	作成書類の軽減、事務作業の効率化	福利厚生 of 充実	メンタルヘルス対策	相談窓口の設置	苦情や意見等への対応体制の整備	職場のなごやかな雰囲気づくり	職員間のコミュニケーションの充実	その他	特になし	無回答
正規職員は予定数どおり採用できた	47	23.4	70.2	40.4	76.6	55.3	44.7	57.4	19.1	57.4	34.0	36.2	44.7	40.4	87.2	74.5	8.5	0.0	2.1
正規職員は予定数どおり採用できなかったが、非正規の保育士で補うことができた	41	43.9	61.0	56.1	80.5	51.2	51.2	51.2	19.5	70.7	39.0	24.4	34.1	34.1	87.8	78.0	4.9	2.4	0.0
正規・非正規の保育士とも予定数どおり採用できなかった	59	35.6	74.6	45.8	71.2	45.8	20.3	39.0	3.4	50.8	18.6	15.3	8.5	23.7	62.7	62.7	1.7	0.0	0.0

保育士等の採用・退職、定着③-2(保育士等調査:今後の就業意向別の満足度)

- 今後の就業意向別に、満足度の平均値をみると、「現在の施設で保育士として働きたい」場合、すべての項目において、他に比べて満足度が高くなっており、特に「仕事内容」、「仕事量」、「給与」、「休憩の取りやすさ」、「職場の人間関係」、「保育士としてのやりがい」において、「保育士以外の仕事で働きたい・仕事はしない」との差が大きくなっている。
- また、「保育士以外の仕事で働きたい・仕事はしない」と回答した場合、特に「保育士としてのやりがい」の満足度が「現在の施設で保育士として働きたい」に比べ1点以上低くなっている。

今後の就業意向別の満足度 (平均値 (単位: 点))



— 現在の施設で保育士として働きたい (n=1,155)
- - - 他施設で保育士として働きたい (n=223)
— 保育士以外の仕事で働きたい・仕事はしない (n=356)
— 未定 (n=540)

※「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化しているため、0点が中間値となる。(点)

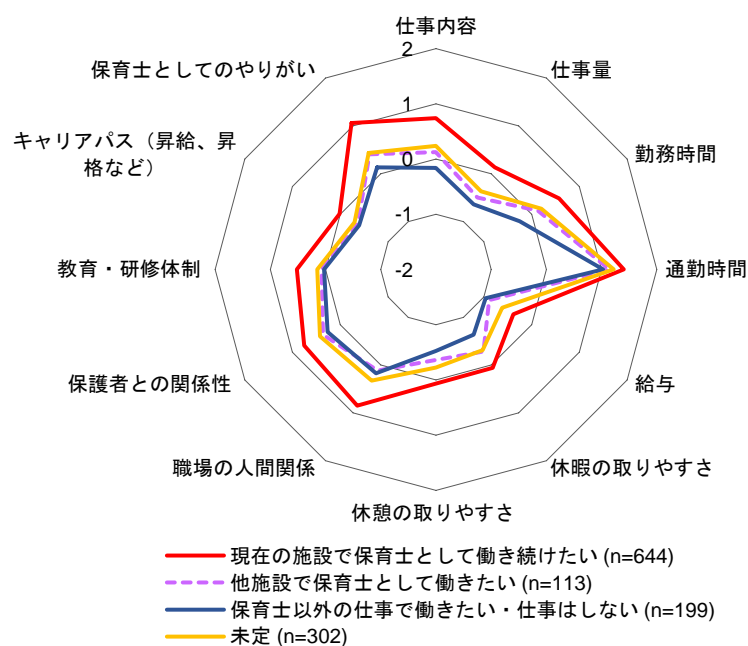
		合計 (n=)	① 仕事 内容	② 仕事 量	③ 勤務 時間	④ 通勤 時間	⑤ 給与	⑥ 休暇 の取 り やす さ	⑦ 休憩 の取 り やす さ	⑧ 職場 の人 間 関 係	⑨ 保護 者 と の 関 係 性	⑩ 教育 ・ 研 修 体 制	⑪ キャ リ ア パ ス (昇 給、 昇 格 な ど)	⑫ 保育 士 と し て の や り が い
今 後 の 就 業 意 向	現在の施設で保育士として働きたい	1,155	0.82	0.28	0.71	1.42	-0.25	0.40	0.16	0.95	0.85	0.55	0.06	1.12
	他施設で保育士として働きたい	223	0.03	-0.51	0.20	1.16	-0.85	-0.14	-0.48	0.12	0.50	-0.03	-0.50	0.38
	保育士以外の仕事で働きたい・仕事はしない	356	-0.12	-0.61	-0.03	1.06	-1.00	-0.36	-0.50	0.20	0.29	-0.04	-0.50	0.11
	未定	540	0.28	-0.17	0.39	1.25	-0.60	-0.04	-0.23	0.40	0.55	0.17	-0.31	0.54

保育士等の採用・退職、定着③-3(保育士等調査:今後の就業意向別の満足度)

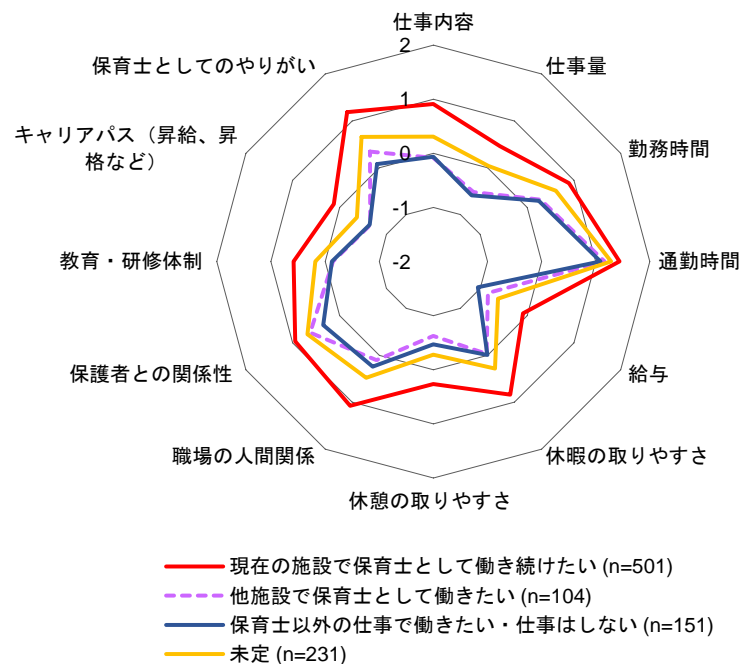
- 運営主体別にみると、いずれも「現在の施設で保育士として働きたい」場合、すべての満足度の項目が高くなっているが、民営では、特に「仕事量」や「休憩の取りやすさ」、「教育・研修体制」、「キャリアパス(昇格、昇給など)」などにおいて、「現在の施設で保育士として働きたい」と「他施設で保育士として働きたい」、「保育士以外の仕事で働きたい・仕事はしない」との差が公営に比べ大きくなっている。

今後の就業意向別の満足度(平均値(単位:点))

(公営)



(民営)

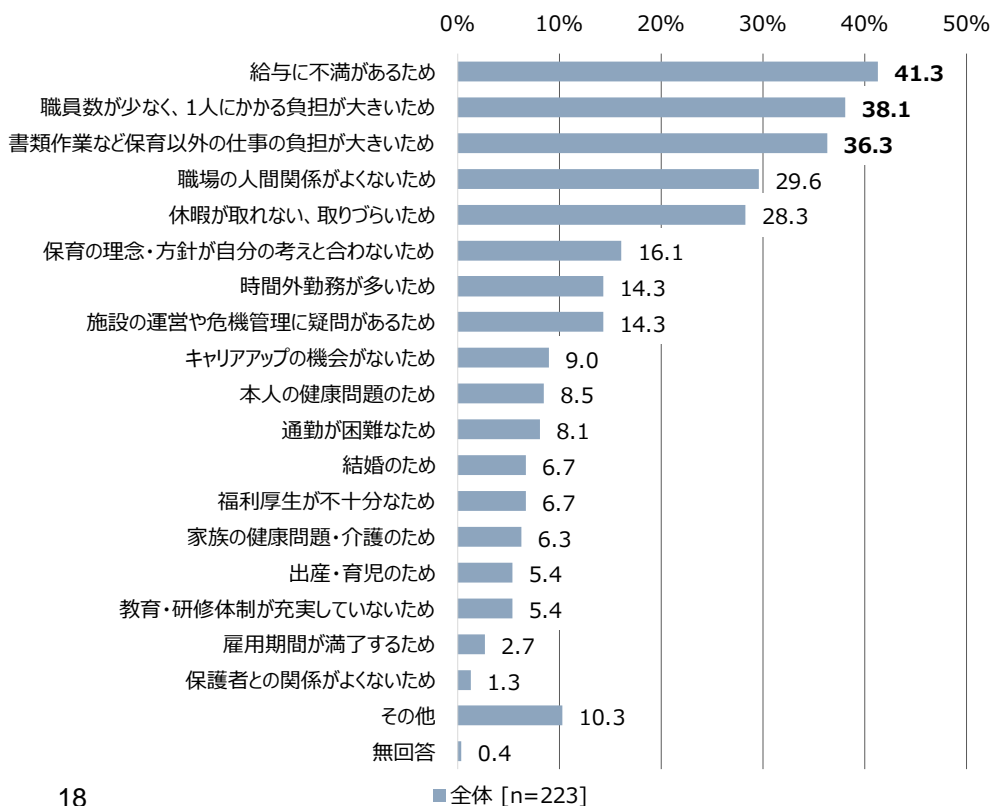


※「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化しているため、0点が中間値となる。

保育士等の採用・退職、定着④(保育士等調査)

- 現在の施設で保育士として働き続けたい理由は、「通勤が便利」(66.7%)、「職場の人間関係がよい」(56.4%)が上位。
- 他施設で働きたい理由は、「給与に不満があるため」、「職員数が少なく、1人にかかる負担が大きいため」、「書類作業など保育以外の仕事の負担が大きいため」が上位。
 - 年代別にみると、20代では、「職場の人間関係がよくないため」「休暇が取れない、取りづらいため」、30代では、「給与に不満があるため」「書類作業など保育以外の仕事の負担が大きいため」が他に比べ高くなっている。
 - 通算就業年数別にみると、5年以上では、「書類作業など保育以外の仕事の負担が大きいため」、5～10年未満、15～20年未満では、「職員数が少なく、1人にかかる負担が大きいため」が他に比べ高くなっている。

他施設で働きたい理由（複数選択）



他施設で働きたい理由（複数選択：上位5項目）

(%)

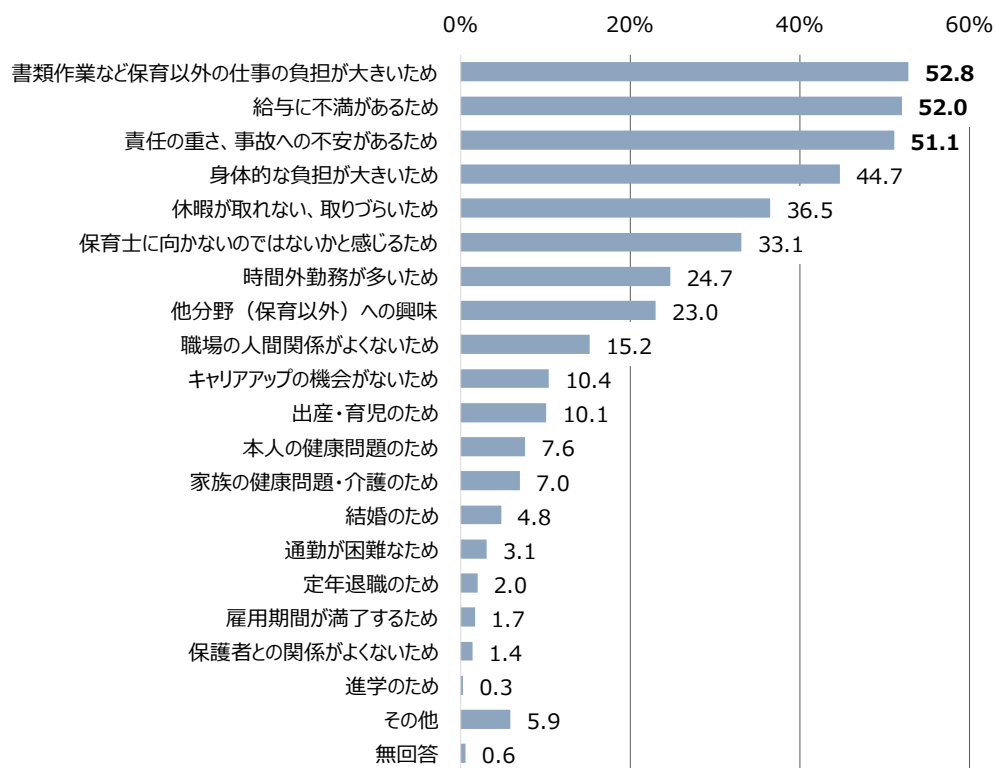
		合計 (n=)	給与に不満があるため	職員数が少なく、1人にかかる負担が大きい	書類作業など保育以外の仕事の負担が大きい	職場の人間関係がよくない	休暇が取れない、取りづらいため
年代	20代	77	42.9	37.7	35.1	37.7	37.7
	30代	53	50.9	34.0	43.4	22.6	20.8
	40代	56	41.1	41.1	35.7	26.8	25.0
	50代	30	26.7	40.0	26.7	23.3	26.7
	60歳以上	7	x	x	x	x	x
通算就業年数	～3年未満	35	34.3	34.3	31.4	37.1	34.3
	3～5年未満	28	42.9	39.3	32.1	17.9	32.1
	5～10年未満	46	47.8	45.7	45.7	37.0	39.1
	10～15年未満	36	38.9	30.6	38.9	36.1	25.0
	15～20年未満	27	51.9	55.6	40.7	33.3	33.3
	20年以上	32	34.4	37.5	37.5	21.9	12.5

保育士等の採用・退職、定着⑤(保育士等調査)

- 保育士以外の仕事で働きたい理由、または仕事をしない理由は、「書類作業など保育以外の仕事の負担が大きいため」、「給与に不満があるため」、「責任の重さ、事故への不安があるため」が上位。
 - ▶ 年代別にみると、20代、30代では、「給与に不満があるため」、「書類作業など保育以外の仕事の負担が大きいため」が他に比べ高くなっている。
 - ▶ 通算就業年数別にみると、15～20年未満では、「書類作業など保育以外の仕事の負担が大きいため」が他に比べ高くなっている。

保育士以外の仕事で働きたい理由、または仕事をしない理由（複数選択：上位6項目）

保育士以外の仕事で働きたい理由、または仕事をしない理由（複数選択）



■全体 [n=356]

(%)

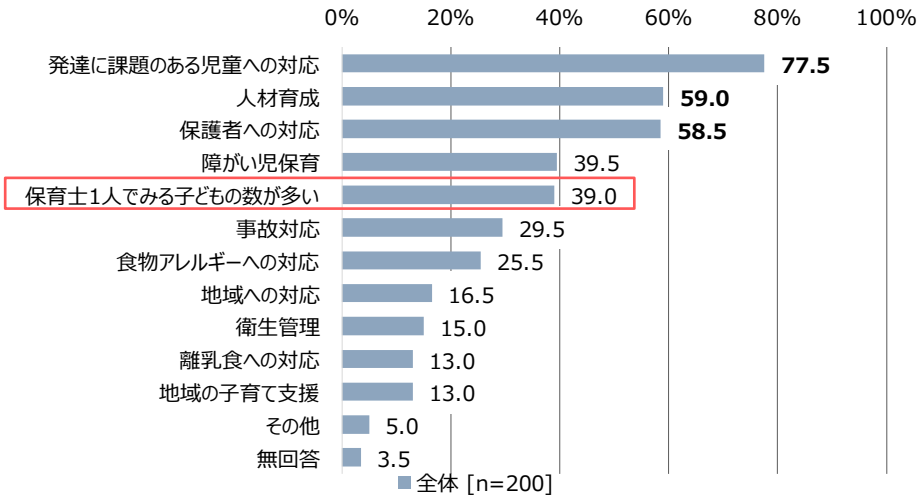
	合計 (n=)	書類作業など保育以外の仕事の負担が大きいため	給与に不満があるため	責任の重さ、事故への不安があるため	身体的な負担が大きいため	休暇が取れない、取りづらいため	保育士に向かないのではないかと感じるため
		年代					
20代	107	57.0	62.6	47.7	38.3	41.1	38.3
30代	102	61.8	60.8	56.9	50.0	38.2	42.2
40代	78	46.2	39.7	55.1	43.6	33.3	34.6
50代	55	47.3	38.2	49.1	52.7	34.5	9.1
60歳以上	14	14.3	28.6	21.4	28.6	14.3	14.3
通算就業年数							
～3年未満	37	48.6	40.5	56.8	48.6	32.4	48.6
3～5年未満	27	55.6	59.3	48.1	37.0	44.4	37.0
5～10年未満	99	51.5	63.6	48.5	39.4	38.4	32.3
10～15年未満	64	56.3	59.4	54.7	53.1	37.5	45.3
15～20年未満	31	64.5	54.8	41.9	35.5	32.3	29.0
20年以上	71	46.5	31.0	50.7	46.5	40.8	16.9

保育現場において対応が難しいもの、負担感の大きいもの

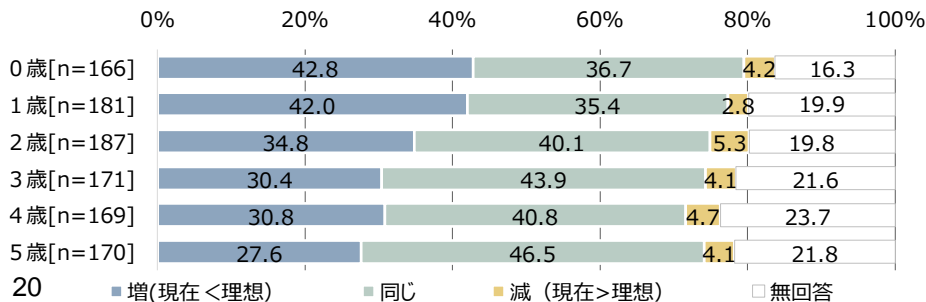
<保育施設調査>

- 保育現場で対応が難しいこととして、「発達に課題のある児童への対応」、「人材育成」、「保護者への対応」が上位。
- 「保育士1人でみる子どもの数が多い」は保育士等調査に比べると10%以上低い。
 - 保育士の現在の配置数と理想の配置数の差をみると、2歳児以降は、「増(現在<理想)」より「同じ」の割合が高くなっている。

保育の現場で対応が難しいもの、負担感が大きいもの（複数選択）



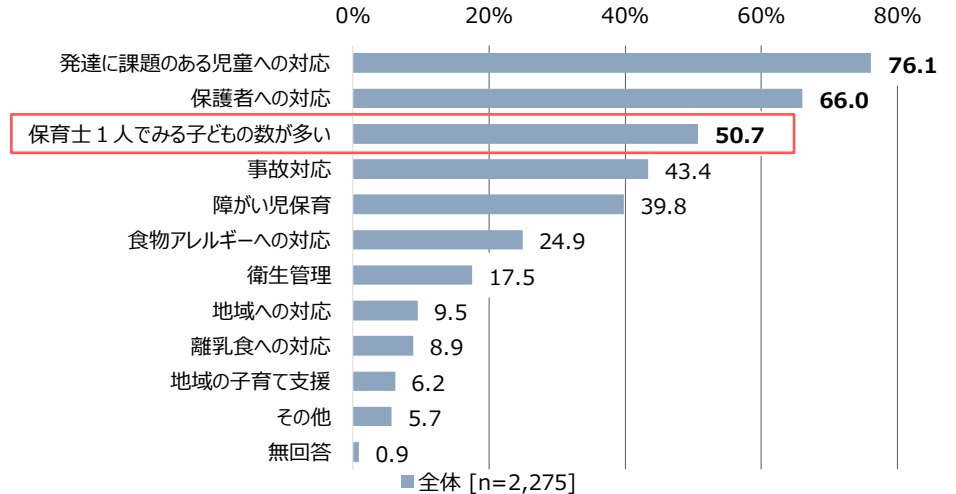
保育士の現在の配置数と理想の配置数の差



<保育士等調査>

- 保育現場で対応が難しいこととして、「発達に課題のある児童への対応」、「保護者への対応」、「保育士1人でみる子どもの数が多い」が上位。
 - 運営主体別にみると、公営では、「保護者への対応」、「地域への対応」、「障がい児保育」が民営に比べ高くなっている。

保育の現場で対応が難しいもの、負担感が大きいもの（複数選択）



<対応が最も難しいもの、負担感が大きいものについて、負担の軽減につながると思う支援や取組>

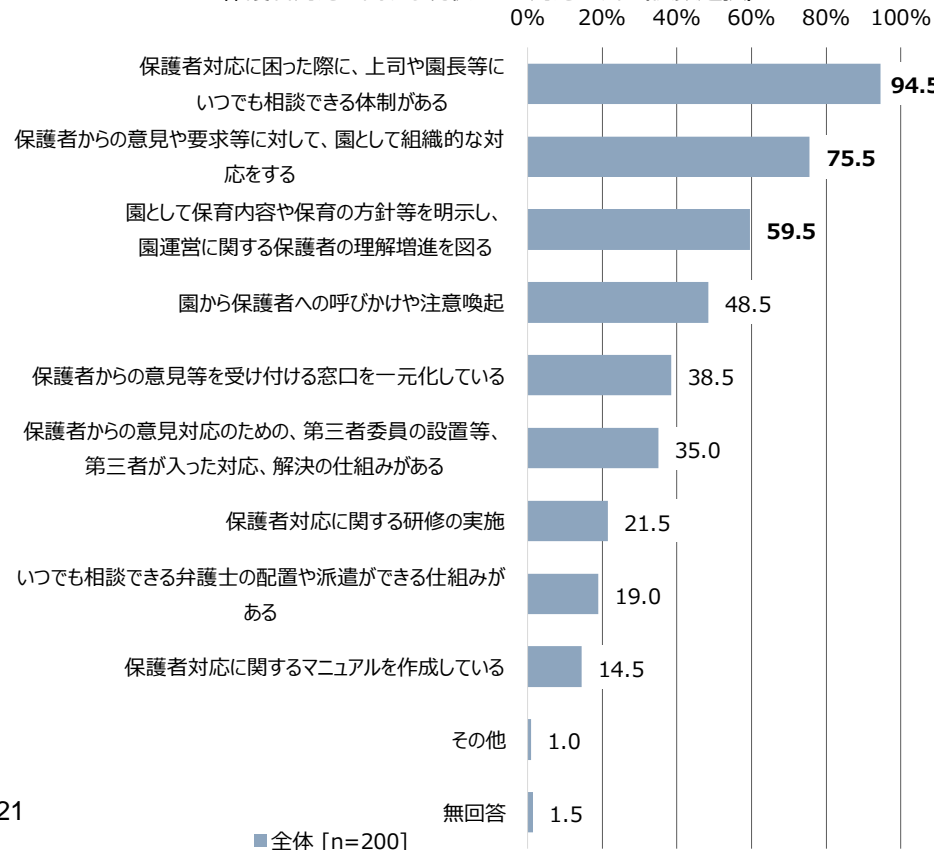
発達に課題のある児童への対応	保護者への対応	保育士1人でみる子どもの数が多い
<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の訪問による助言、専門家へ気軽に相談できる窓口 ・加配やフリー保育士の充実（グレーゾーンの子どもへの加配も） ・発達に課題がある子どもに1対1で関われる職員の配置 ・研修の充実 ・保護者との共通理解、情報共有等 	<ul style="list-style-type: none"> ・心に余裕をもって保護者対応できるように保育士を増やす ・保護者対応専門の職員の配置 ・保育所以外の第三者など専門機関による保護者対応 ・職員間での情報共有、共通理解 ・保護者対応に関する研修やマニュアル ・気軽に相談できる場所等 	<ul style="list-style-type: none"> ・配置基準（対比人数）の見直し ・グレーゾーンの子ども、発達障害の子どもに対応する職員増 ・国の基準の保育士数をクラスや園に合わせて調整できる支援 ・仕事の軽減、分担、書類作成の軽減 ・特に正職員の人員確保等

保護者対応

<保育施設調査>

- 保護者対応の現状、対応方針としては、「保護者対応に困った際に、上司や園長等にいつでも相談できる体制がある」、「保護者からの意見や要求等に対して、園として組織的な対応をする」、「園として保育内容や保育の方針等を明示し、園運営に関する保護者の理解増進を図る」が上位。

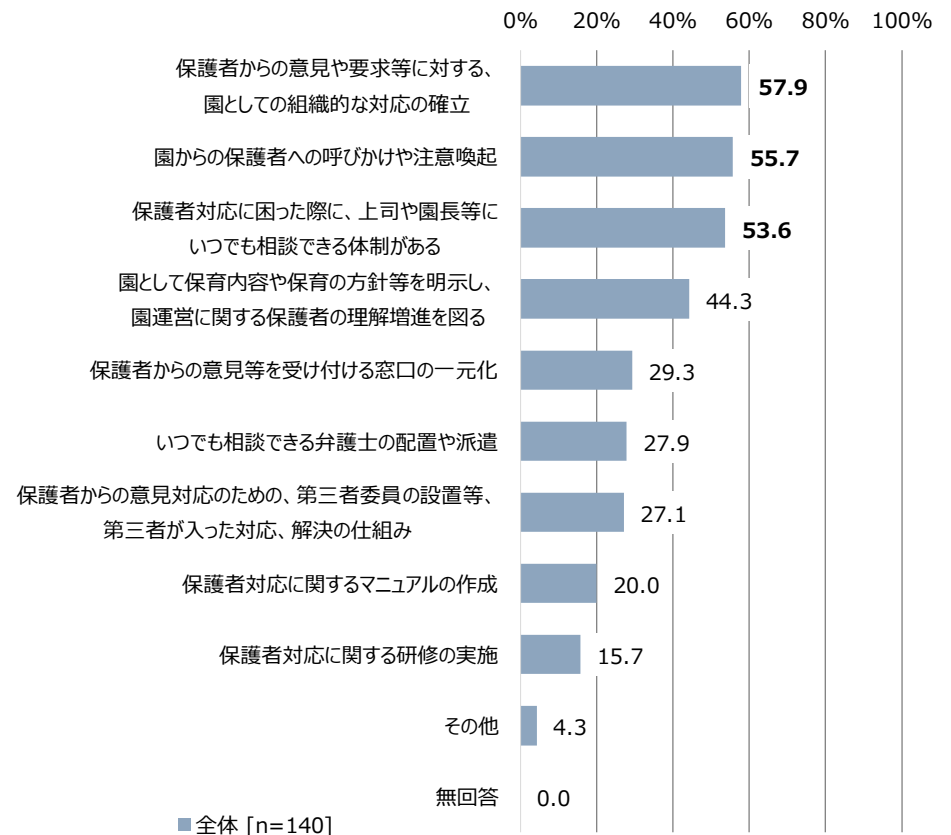
保護者対応に関する現状および対応方針（複数選択）



<保育士等調査>

- 保護者との関係性で不満、やや不満に感じているのは、計6.1%
 - 不満に感じていることは、「本来保護者で対応すべきと思われること等に対する過度な要求が多い」(65.0%)が最も高い。
- 保護者対応に必要な取組やサポートは、「保護者からの意見や要求等に対する、園としての組織的な対応の確立」、「園からの保護者への呼びかけや注意喚起」、「保護者対応に困った際に、上司や園長等にいつでも相談できる体制がある」が上位。

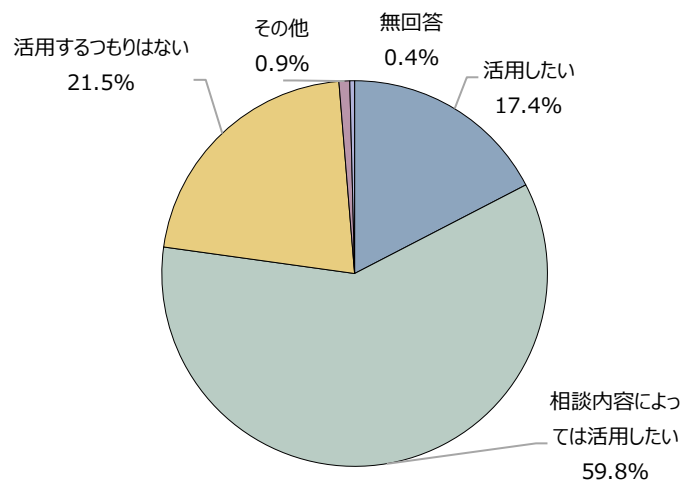
保護者との関係性に不満を感じることなく働くために必要な取組やサポート（複数選択）



相談環境①(保育士等調査:職場とは切り離された相談窓口の活用意向)

- 職場とは切り離された相談窓口の活用意向は、「相談内容によっては活用したい」が約6割、「活用するつもりはない」が約2割となっている。
 - 通算就業年数別にみると、3年未満では、「相談内容によっては活用したい」が、他に比べ高くなっている。
 - 勤務している施設の規模別にみると、5人以下の施設で、「活用したい」、「相談内容によっては活用したい」の合計が9割を超え、他に比べ高くなっている。

職場とは切り離された相談窓口の活用意向[n=2,275]



職場とは切り離された相談窓口の活用意向 (%)

		合計 (n=)	活用したい	相談内容によっては活用したい	活用するつもりはない	その他	無回答
通算就業年数	～3年未満	277	16.6	66.4	16.2	0.4	0.4
	3～5年未満	185	18.9	58.9	22.2	0.0	0.0
	5～10年未満	438	18.7	59.8	20.8	0.7	0.0
	10～15年未満	375	21.3	54.1	22.9	1.3	0.3
	15～20年未満	272	17.3	58.1	23.5	1.1	0.0
	20年以上	552	13.6	61.4	23.2	0.9	0.9
施設の規模	5人以下	19	21.1	73.7	5.3	0.0	0.0
	6～19人	273	19.4	53.1	25.3	1.5	0.7
	20～49人	510	18.8	56.3	23.3	1.2	0.4
	50～99人	453	16.6	60.9	21.9	0.7	0.0
	100人以上	999	16.2	62.8	19.9	0.7	0.4

相談環境②(保育士等調査:満足度別、今後の就業意向別の相談相手の種類)

- 満足度の各項目別に、労働条件や職場環境、園内での保育の方法などについて疑問や不満を抱いた際の相談相手の種類をみると、「仕事内容」、「勤務時間」、「休憩の取りやすさ」、「職場の人間関係」、「教育・研修体制」、「保育士としてのやりがい」が「満足・やや満足」の場合、「不満・やや不満」に比べて「職場内」が高くなっている。
- 今後の就業意向別に労働条件や職場環境、園内での保育の方法などについて疑問や不満を抱いた際の相談相手を見ると、「現在の施設で保育士として働き続けたい」場合、「職場内」が他に比べて高くなっている。

満足度別の相談相手の種類

(%)

(%)

		合計 (n=)	職場内	家族、 友人・知人	産業医、 その他	相談先が ない	相談して いない、 無回答
全体		2,275	73.0	76.6	1.6	2.9	0.3
仕事内容	満足・ やや満足	1,150	77.4	76.4	0.9	1.7	0.4
	どちらとも いえない	801	67.8	76.2	2.4	4.2	0.2
	不満・ やや不満	323	70.3	78.6	2.2	4.0	0.0
勤務時間	満足・ やや満足	1,164	75.3	75.6	1.1	2.1	0.3
	どちらとも いえない	641	71.1	75.4	1.4	3.9	0.2
	不満・ やや不満	468	69.9	81.0	3.0	3.4	0.4
休憩の 取りやすさ	満足・ やや満足	735	77.0	76.9	0.7	2.0	0.1
	どちらとも いえない	625	72.8	71.2	1.3	3.0	0.6
	不満・ やや不満	873	70.7	80.8	2.5	3.4	0.1
		合計 (n=)	職場内	家族、 友人・知人	産業医、 その他	相談先が ない	相談して いない、 無回答
全体		2,275	73.0	76.6	1.6	2.9	0.3
職場の 人間関係	満足・ やや満足	1,368	77.6	76.5	1.0	1.9	0.3
	どちらとも いえない	560	67.5	75.0	1.6	4.6	0.5
	不満・ やや不満	338	63.6	80.8	4.1	3.8	0.0
教育・ 研修体制	満足・ やや満足	884	76.9	76.7	1.1	2.1	0.2
	どちらとも いえない	1,032	70.6	75.8	1.7	3.4	0.4
	不満・ やや不満	345	70.4	79.7	2.3	3.5	0.0
保育士 としての やりがい	満足・ やや満足	1,488	76.7	77.2	0.8	2.0	0.3
	どちらとも いえない	575	67.7	76.2	2.6	3.5	0.3
	不満・ やや不満	209	61.2	74.2	4.3	7.7	0.0

今後の就業意向別の相談相手の種類

(%)

		合計 (n=)	職場内	家族、 友人・知人	産業医、 その他	相談先が ない	相談して いない、 無回答
全体		2,275	73.0	76.6	1.6	2.9	0.3
今後の 就業意向別	現在の施設 で保育士と して働き続 けたい	1,155	77.2	74.6	1.2	2.2	0.4
	他施設で保 育士として働 きたい	223	70.0	78.9	1.3	3.6	0.0
	保育士以外 の仕事で働 きたい・仕事 はしない	356	70.2	79.2	2.2	3.7	0.3
	未定	540	67.2	78.1	2.0	3.7	0.2

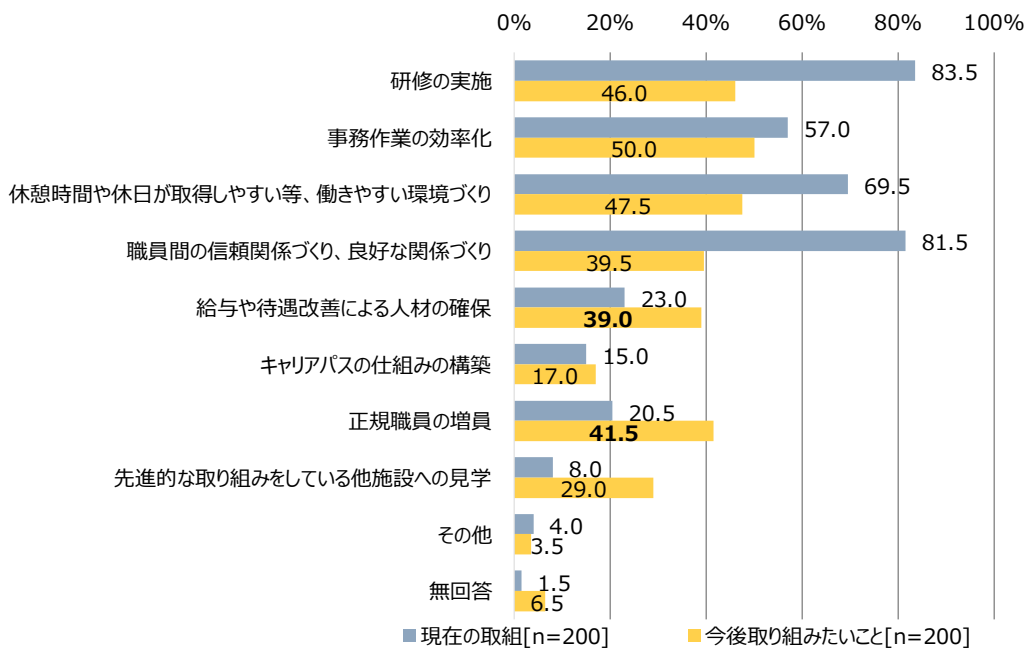
※「職場内」には、「職場の上司」、「職場の同僚」、「職場の人事担当者」を含む。
「家族、友人・知人」には、「家族（パートナー）、親族」、「友人・知人」を含む。

保育の質向上に向けた取組

<保育施設調査>

- 保育の質向上に向けて現在、施設で取り組んでいることは、「研修の実施」、「職員間の信頼関係づくり、良好な関係づくり」が上位。
- 今後取り組みたいこととしては、「事務作業の効率化」、「休憩時間や休日が取得しやすい等、働きやすい環境づくり」が上位。
- 「給与や待遇改善による人材の確保」、「正規職員の増員」、「先進的な取り組みをしている他施設への見学」は、今後取り組みたいと考えている施設が多い。

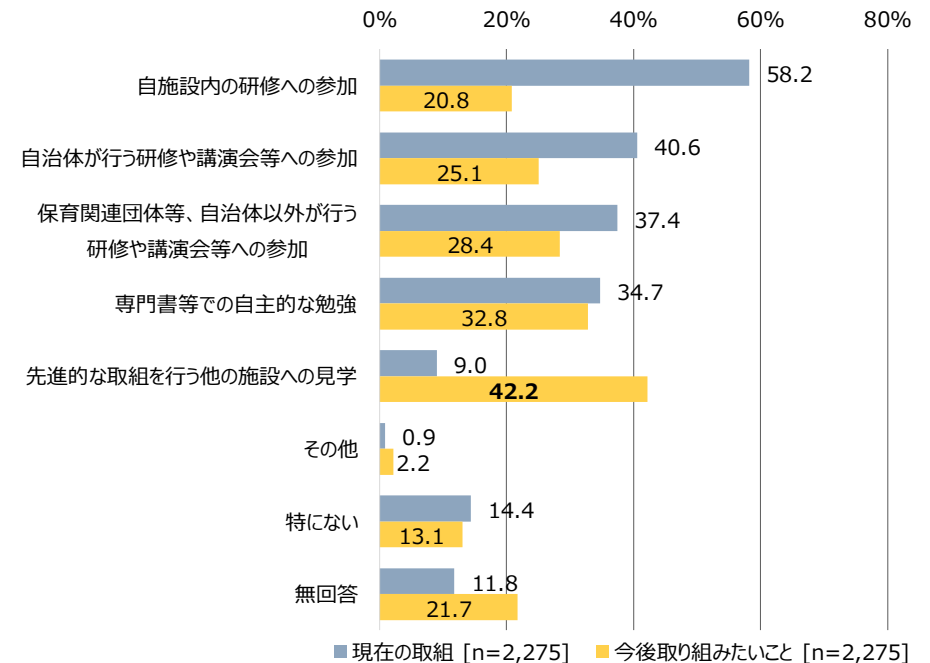
保育の質向上のために現在取り組んでいること、今後取り組みたいこと（複数選択）



<保育士等調査>

- 資質向上のために現在取り組んでいることは、「自施設内の研修への参加」が高い。
- 今後取り組みたいこととしては、「先進的な取組を行う施設への見学」が最も高くなっている。
- 資質向上を行うにあたっての課題は、「資質向上に取り組む時間がない」(48.6%)、「人手が足りず、業務時間内に研修等の受講が難しい」(43.6%)が上位。

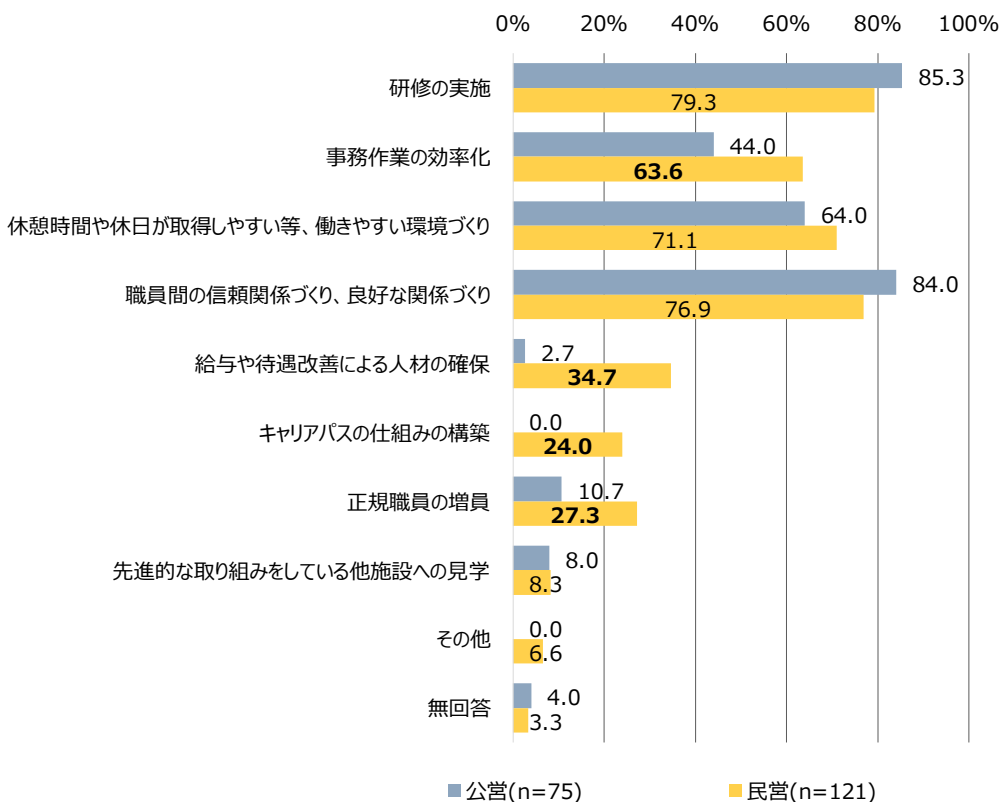
保育士として資質向上のために現在取り組んでいること、今後取り組みたいこと（複数選択）



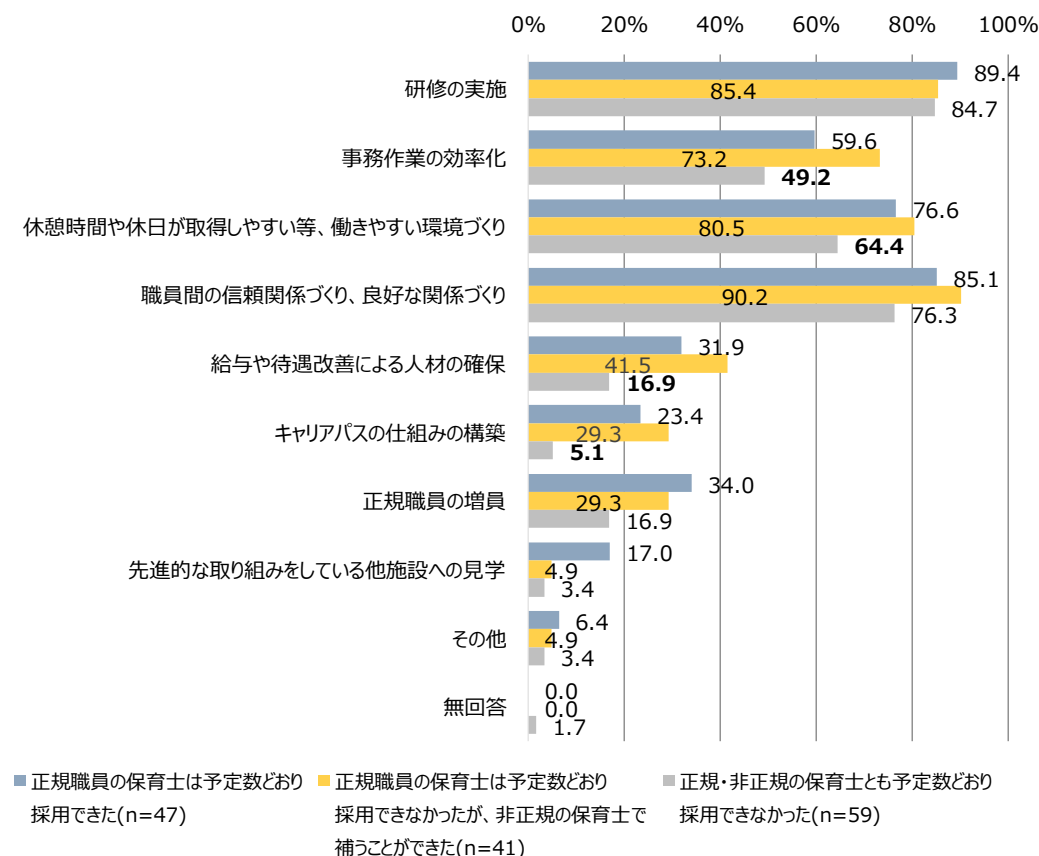
保育の質向上に向けた取組（運営主体別、採用状況別の取組状況；保育施設調査）

- 保育の質を向上させるために現在取り組んでいることは、公民とも「研修の実施」、「職員間の信頼関係づくり、良好な関係づくり」、「休憩時間や休日が取得しやすい等、働きやすい環境づくり」が上位にあがっている。その他、民営では「事務作業の効率化」、「給与や待遇改善による人材の確保」、「キャリアパスの仕組みの構築」、「正規職員の増員」が公営に比べて高くなっている。
- 採用状況別では、上位にあがっているものに大きな違いはみられないものの、「正規・非正規の保育士とも予定数どおり採用できなかった」施設では「事務作業の効率化」、「休憩時間や休日が取得しやすい等、働きやすい環境づくり」、「給与や待遇改善による人材の確保」、「キャリアパスの仕組みの構築」といった取組が他に比べて低くなっている。

保育の質向上のために現在取り組んでいること（運営主体別）



保育の質向上のために現在取り組んでいること（採用状況別）



保育の質向上に向けた取組(保育士等調査:満足度別、今後の就業意向別の資質向上のための取組)

- 満足度別に資質向上のために現在取り組んでいることをみると、「教育・研修体制」、「キャリアパス(昇格、昇給など)」が「満足・やや満足」の場合、「不満・やや不満」に比べて、研修参加など多くの項目が高くなっていると同時に、「保育士としてのやりがい」が「満足・やや満足」の場合には、「自施設内の研修への参加」が「不満・やや不満」に比べて高くなっている。
- 一方で、「仕事量」、「勤務時間」、「休暇の取りやすさ」、「休憩の取りやすさ」が「不満・やや不満」の場合、「満足・やや満足」に比べて、主に研修への参加に関する項目が高くなっている。
- また、今後の就業意向別に資質向上のために現在取り組んでいることをみると、「現在の施設で保育士として働きたい」場合、「自施設内の研修への参加」が他に比べて高くなっている。

満足度別の資質向上のために現在取り組んでいること

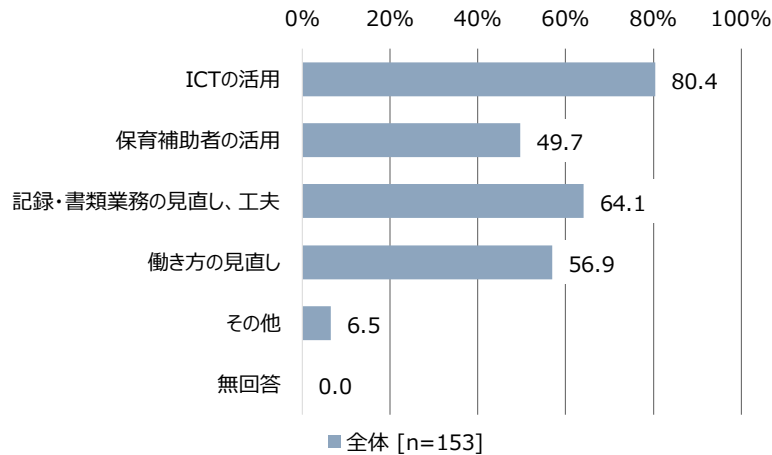
										(%)												
		合計 (n=)	自施設内の研修への参加	自治体が行う研修や講演会等への参加	保育関連団体等、自治体以外で行う研修や講演会等への参加	専門書等での自主的な勉強	先進的な取組を行う他の施設への見学	その他	特にない	無回答			合計 (n=)	自施設内の研修への参加	自治体が行う研修や講演会等への参加	保育関連団体等、自治体以外で行う研修や講演会等への参加	専門書等での自主的な勉強	先進的な取組を行う他の施設への見学	その他	特にない	無回答	
全体		2,275	58.2	40.6	37.4	34.7	9.0	0.9	14.4	11.8	全体		2,275	58.2	40.6	37.4	34.7	9.0	0.9	14.4	11.8	
仕事量	満足・やや満足	725	53.8	32.1	30.5	32.0	8.8	0.7	17.9	13.7	教育・研修体制	満足・やや満足	884	70.8	49.5	46.0	39.7	12.0	0.5	8.8	9.0	
	どちらともいえない	750	56.1	38.5	35.6	33.9	7.6	0.9	15.7	13.2		どちらともいえない	1,032	48.9	32.5	29.5	29.4	7.4	1.2	20.3	14.1	
	不満・やや不満	794	64.1	50.1	45.3	37.9	10.5	1.0	9.9	8.8		不満・やや不満	345	55.7	43.5	40.6	38.6	6.7	1.2	10.4	10.7	
勤務時間	満足・やや満足	1,164	54.7	32.9	30.8	31.9	7.5	0.7	17.9	12.3	キャリアパス	満足・やや満足	417	67.9	49.4	48.4	41.0	14.1	0.0	7.9	10.6	
	どちらともいえない	641	58.7	43.5	39.8	35.3	11.5	1.6	13.1	12.6		どちらともいえない	1,206	56.0	38.1	33.7	32.9	7.7	0.8	17.8	11.0	
	不満・やや不満	468	66.7	55.8	50.4	40.8	9.4	0.4	7.5	9.4		不満・やや不満	618	57.9	41.1	38.8	35.0	8.6	1.6	11.8	12.5	
休暇の取りやすさ	満足・やや満足	993	51.7	31.2	30.8	30.7	9.3	0.7	17.8	14.4	保育士としてのやりがい	満足・やや満足	1,488	60.5	41.7	38.1	36.6	10.1	0.8	13.1	11.2	
	どちらともいえない	476	60.5	43.7	41.0	31.3	10.1	1.1	13.9	11.3		どちらともいえない	575	54.3	36.9	34.4	29.6	6.3	0.9	17.9	12.9	
	不満・やや不満	798	65.4	50.8	43.7	41.5	8.0	1.0	10.4	8.6		不満・やや不満	209	53.6	43.5	40.7	35.9	9.1	1.4	14.4	12.0	
休憩の取りやすさ	満足・やや満足	735	57.1	34.6	33.3	30.9	8.2	1.0	16.7	13.2												
	どちらともいえない	625	60.2	42.2	38.1	33.8	11.7	0.8	12.8	12.0												
	不満・やや不満	873	59.8	46.3	41.9	39.4	8.2	0.9	12.6	9.3												

働き方改革の取組状況

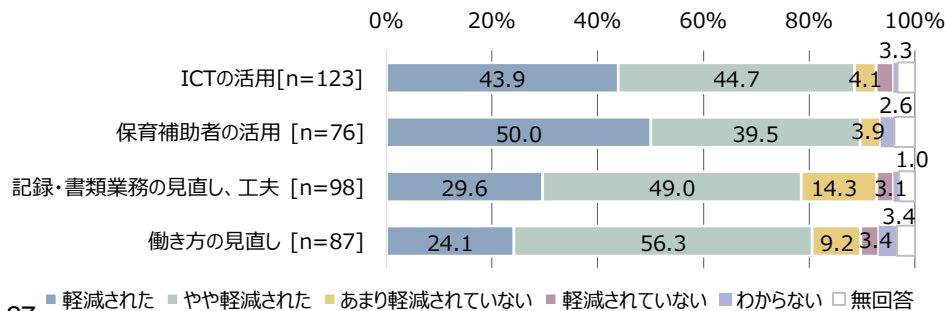
< 保育施設調査 >

- 働き方改革については、約7.5割の施設が「している」と回答しており、取組の種類としては、「ICTの活用」が約8割と最も高くなっている。
- 働き方改革による業務負担軽減の効果は、「軽減された」、「やや軽減された」の合計がいずれも8割弱～9割弱となっている。

働き方改革の取組の種類（複数選択）



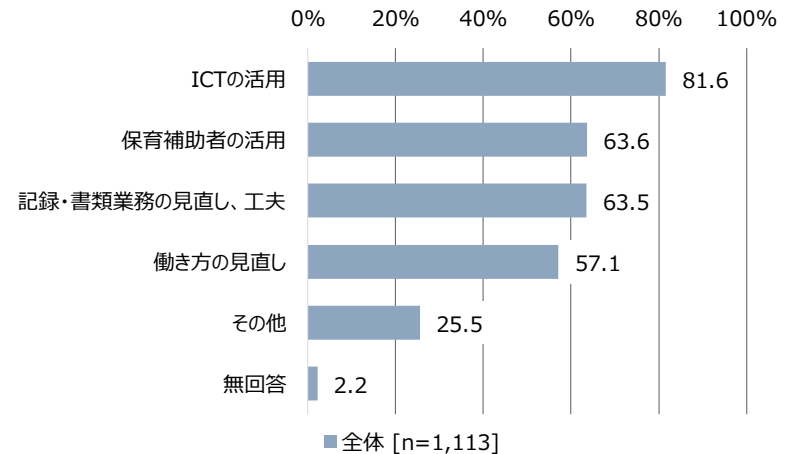
働き方改革による業務負担軽減の効果



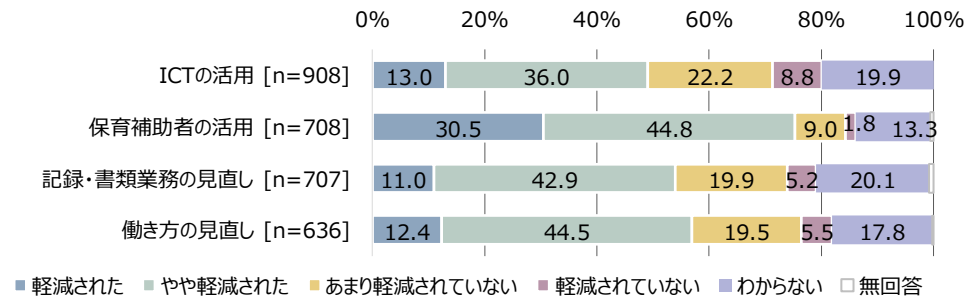
< 保育士等調査 >

- 働き方改革については、約半数が「している」と回答しており、取組の種類としては、「ICTの活用」が約8割と最も高くなっている。
- 働き方改革による業務負担軽減の効果は、「保育補助者の活用」では「軽減された」、「やや軽減された」の合計が約7.5割となっているが、それ以外の取組では6割未満となっている。

働き方改革の取組の種類（複数選択）



働き方改革による業務負担軽減の効果



働き方改革の取組状況(採用状況別の取組状況、働き方改革の取組状況別の満足度①)

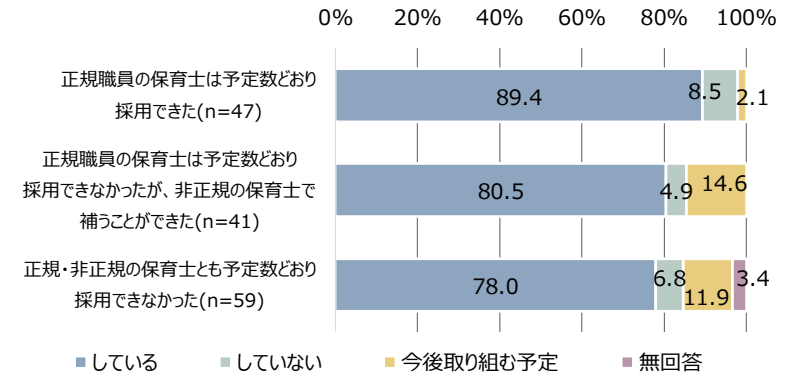
< 保育施設調査 >

- 採用状況別に働き方改革の取組の有無をみると、「正規職員の保育士は予定数どおり採用できた」施設では、実施している割合が高くなっている。

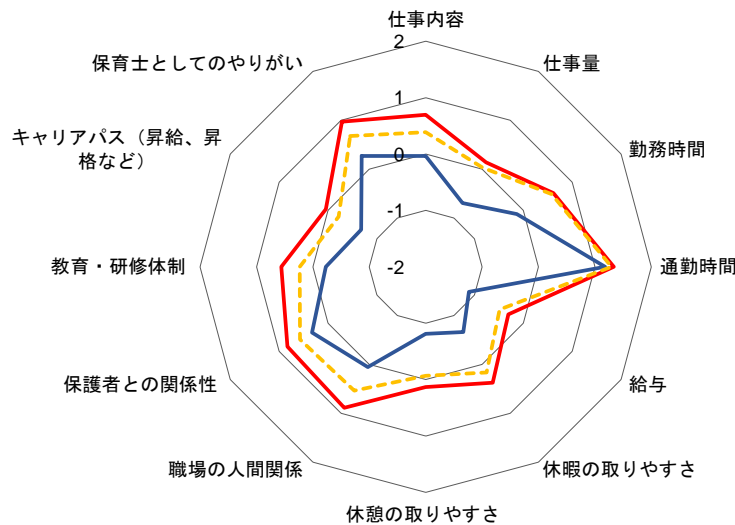
< 保育士等調査 >

- 働き方改革を実施している場合、実施していない、わからない場合に比べ、すべての満足度の項目で高くなっているが、特に「休暇の取りやすさ」「休憩の取りやすさ」の差が大きくなっている。

働き方改革の取組状況 (採用状況別)



働き方改革の取組状況別の満足度 (平均値 (単位: 点))



— 実施している (n=1,113) — 実施していない (n=402) - - - わからない (n=755)

※「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化

(点)

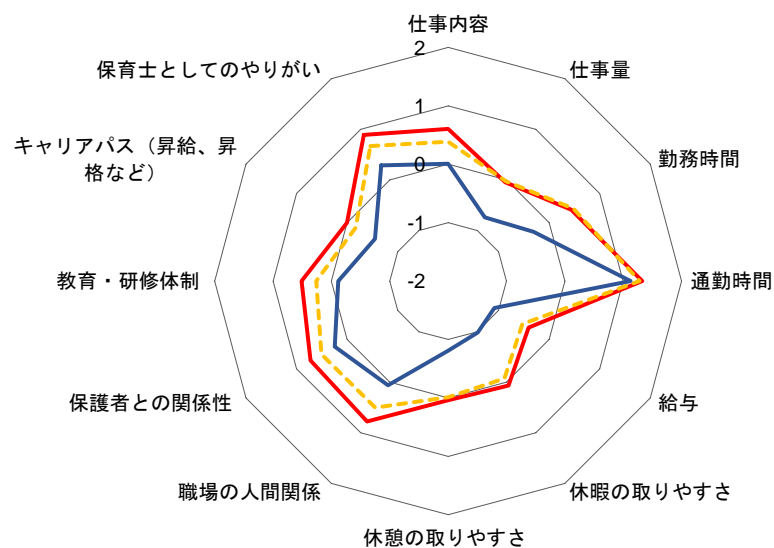
		合計 (n=)	① 仕事内容	② 仕事量	③ 勤務時間	④ 通勤時間	⑤ 給与	⑥ 休暇の取りやすさ
働き方改革	実施している	1,113	0.70	0.14	0.62	1.34	-0.31	0.37
	実施していない	402	-0.03	-0.69	-0.13	1.18	-1.11	-0.66
	わからない	755	0.39	0.03	0.58	1.30	-0.49	0.16
			⑦ 休憩の取りやすさ	⑧ 職場の人間関係	⑨ 保護者との関係性	⑩ 教育・研修体制	⑪ キャリアパス (昇給、昇格など)	⑫ 保育士としてのやりがい
働き方改革	実施している		0.13	0.89	0.83	0.56	0.04	0.97
	実施していない		-0.81	0.05	0.33	-0.23	-0.68	0.27
	わからない		-0.07	0.54	0.57	0.23	-0.22	0.68

働き方改革の取組状況(働き方改革の取組状況別の満足度②)

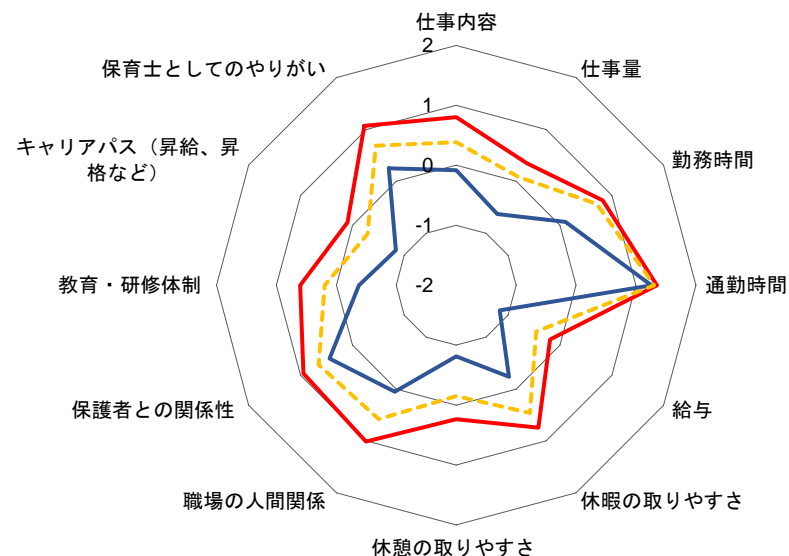
- 運営主体別にみると、公営では実施している場合とわからない場合の差はあまりないが、実施している場合、特に「休暇の取りやすさ」、「休憩の取りやすさ」において、実施していない場合との差が大きくなっている。
- 民営では、実施している場合と実施していない場合の差が大きく、「休暇の取りやすさ」、「休憩の取りやすさ」に加え、「仕事量」、「給与」、「職場の人間関係」、「教育・研修体制」、「キャリアパス(昇給、昇格など)」の差も大きくなっている。

働き方改革の取組状況別の満足度(平均値(単位:点))

(公営)



(民営)



— 実施している (n=606) — 実施していない (n=228) - - - わからない (n=421)

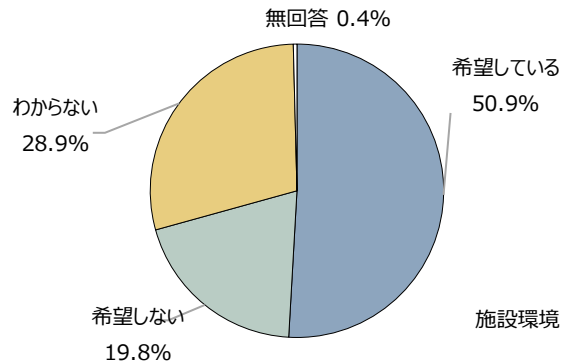
— 実施している (n=496) — 実施していない (n=172) - - - わからない (n=318)

※「満足」を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化しているため、0点が中間値となる。

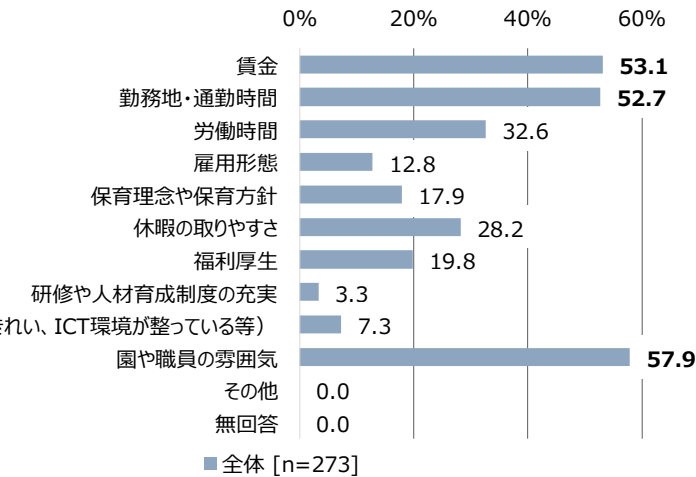
保育士を志望する学生の状況<保育士養成校学生調査>

- 保育士としての就職を希望している学生は約半数であり、約2割は希望していない。
- 保育士としての就職を希望する学生において、就職先を考える上で重視する(重視した)点は、「賃金」、「勤務地・通勤時間」、「園や職員の雰囲気」が上位。
- すでに保育士としての就職が決まっている学生の就職予定地としては、「奈良県内」が46.8%、「奈良県外」が29.9%と県外が3割を占める。
- まだ就職先が決まっていない学生の現時点での就職希望地としては、「奈良県内のみ」が35.9%、「奈良県内、県外どちらでも」が約1割、「奈良県外のみ」が約3割。
- 保育士の就職を希望していない、まだ決めていない理由は、「賃金が希望と合わない」、「休暇が少ない・休暇が取りにくい」が上位。

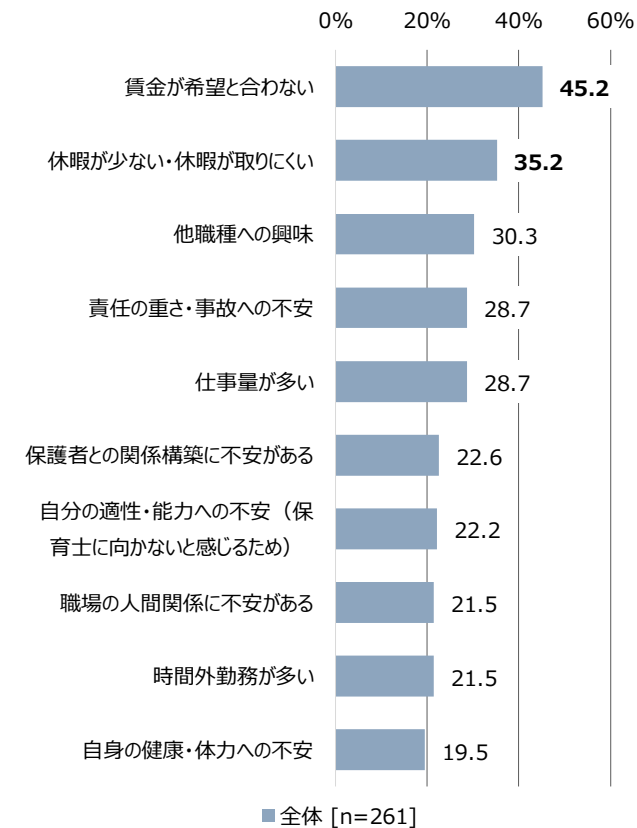
保育士としての就職希望 [n=536]



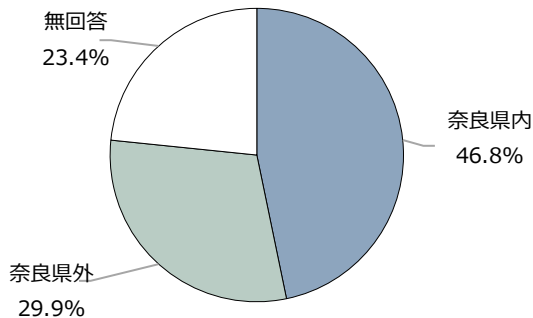
保育士としての就職先を考える上で重視する(重視した)点



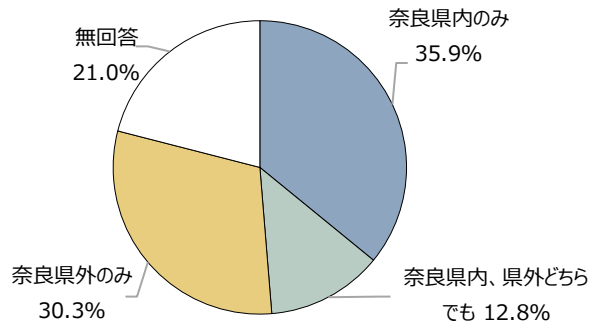
保育士としての就職を希望しない、まだ決めていない理由(複数選択:上位10項目)



就職予定地 [n=77]



現時点での就職希望地 [n=195]



保育士を目指す学生が増えるために必要なこと

<養成校調査>

- 保育士を目指す学生が増えるための行政や保育関係団体等の支援や制度については、「保育士の処遇改善(給与・職場環境等)」、「学生の保護者や高校等の学校に向けた保育士の仕事に関するガイダンスの実施」が多くなっている。

<養成校学生調査>

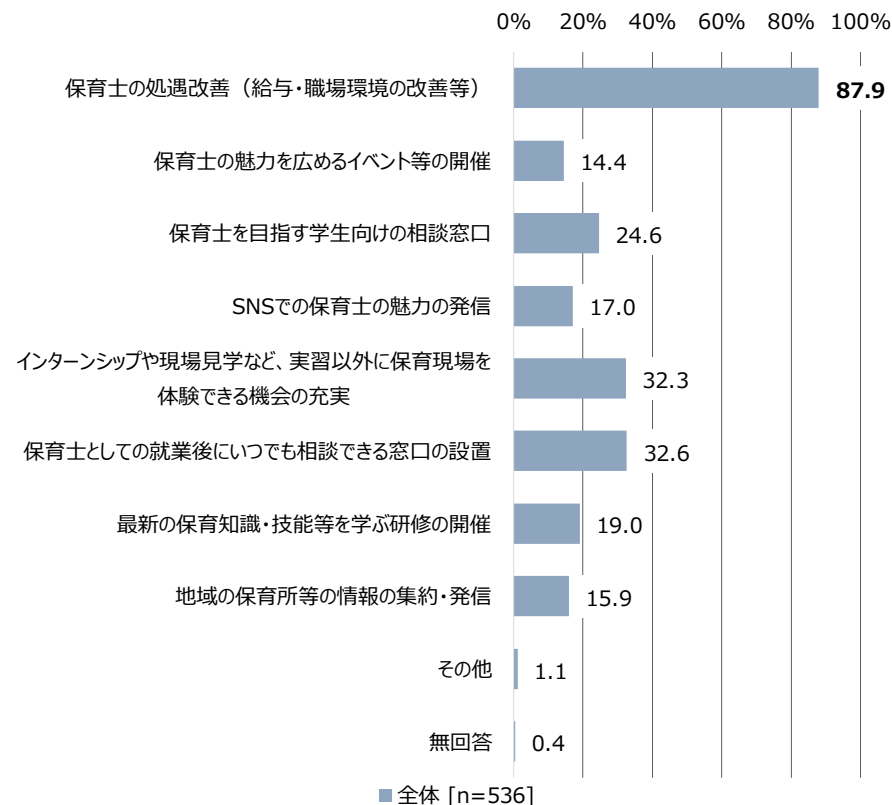
- 保育士を目指す学生が増えるための支援や取組としては、「保育士の処遇改善(給与・職場環境の改善等)」が9割弱と、突出して高くなっている。

保育士を目指す学生を増やすための、行政や保育関係団体等の支援・制度（複数選択）

	校数
保育士の処遇改善(給与・職場環境等)	6
学生の保護者や高校等の学校に向けた保育士の仕事に関するガイダンスの実施	4
SNS等学生世代に届きやすい方法での保育士の魅力の発信	3
インターンシップや施設見学など、実習以外に保育現場を体験できる機会の充実	3
保育士としての就業後にいつでも相談できる窓口の設置	3
最新の保育知識・技能等を学ぶ研修の開催	3
保育士の魅力を広めるイベント等の開催	2
地域の保育所等の情報の集約・発信	2
その他	1※
保育士を目指す学生向けの相談窓口	0

※その他：「教職大学院への進学を助成する制度」

保育士を目指す学生が増えるための支援や制度（複数選択）



まとめと考察

- 採用に課題があることもあり、現場における人手不足が課題
 - 保育施設調査では、3割の施設が、令和2～4年度において、正規・非正規ともに保育士を予定通り採用できておらず、採用に苦慮していることがうかがえる。また、過去3年間の1施設当たりの新規採用者数は6.6人(うち正規職員3.3人)である一方で、過去3年間の1施設当たりの退職者数が5.4人(うち正規職員2.5人)と、ほぼ職員が増えていない状況にある。
 - 保育士等調査では、約4割が休憩が十分に取れていない状況にあり、その理由として、「人手不足のために保育業務から抜けられない」が最も高い。
 - 保育士等調査では、退職した理由、他施設で働きたい理由において、「一人一人にかかる負担が大きい」といった人手不足に関する回答が上位にあがっている。
 - 保育士等調査では、保育現場で対応が難しいこと、負担感の大きいこととして、「保育士1人でみる子どもの数が多い」が約5割となっているが、施設調査では、4割弱とやや開きがあり、より現場で働く保育士において、人手不足感を強く感じていることが考えられる。保育士等調査の自由意見でも、保育士不足や保育士1人が見る子どもの多さに関する意見が多くみられた。
- 採用がうまくいかないと、働きやすい環境づくりにも課題があり、悪循環
 - 保育施設調査において、職場定着の取組を採用状況別にみると、「正規・非正規の保育士とも予定数どおり採用できなかった」施設では、「人材育成制度の充実(メンター制度等)」、「福利厚生の実施」、「メンタルヘルス対策」、「相談窓口の設置」、「苦情や意見等への対応体制の整備」などが他に比べ低くなっている。
 - 保育の質を向上させるための取組についても、「正規・非正規の保育士とも予定数どおり採用できなかった」施設では、「事務作業の効率化」、「給与や待遇改善による人材の確保」、「キャリアパスの仕組みの構築」といった取組が他に比べて低くなっている。
 - また、採用状況別に働き方改革の取組の有無をみると、「正規職員の保育士は予定数どおり採用できた」施設において、実施している割合が高くなっている。
 - 採用がうまくいっていないことで、人員に余裕がなく、処遇改善や人材育成、働く職員への支援体制の整備など、働きやすい職場づくりを整えるところにまで取り組めていないことが考えられる。

まとめと考察

● 給与への不満

- 給与については、運営主体に関わらず「200～300万円未満」が最も割合が高いが、年代別にみると、20代では「200～300万円未満」が5割を超えている。通算就業年数別にみると、10年未満までは「200～300万円未満」が3割以上を占めており、雇用形態別にみると、正規でも「200～300万円未満」、「300～400万円未満」で約6割を占めている。
- 満足度についても給与が最も低く、勤務内容に対する給与の妥当性においても、「安いと思う」、「やや安いと思う」の合計が7割を超えている。特に、20代、30代で、「安いと思う」の割合が高く、20代、30代では、保育士以外の仕事がしたい、仕事はしない理由でも、「給与に不満があるため」が高く、また30代では退職の理由でも、給与面が他の年代に比べ高い傾向にあり、20代、30代の定着について、給与面の影響が大きいと考えられる。
- 保育施設調査においては、職場定着のために今後取り組みたいこととして、現状の取組を上回っているものに「給与の引き上げ」があがっており、施設も給与面の引き上げにより人材確保・定着に取り組んでいきたい意向があることがうかがえる。

● 発達に課題のある子どもへの対応の難しさ

- 保育現場で対応が難しいことについて、保育施設調査、保育士等調査いずれにおいても、「発達に課題のある児童への対応」の回答が最も高くなっている。
- 「発達に課題のある児童への対応」への必要な支援や取組としては、専門家による助言や相談等専門家によるサポートを求める意見や、加配やフリー保育士の充実等人材の増員を求める意見などが挙げられている。
- 保育士等対象の意見交換会においても、専門家やSVによる助言を受けられる機会の確保や、専門的知識やスキル向上のための研修を求める声も聞かれた。

● 事務作業、書類作成の負担が大きい

- 時間外勤務が発生する主な理由や、休憩が取れない主な理由として、「保育日誌などの書類作成」が上位。
- 保育士以外の仕事、仕事はしない理由において、「書類作業など保育以外の仕事の負担が大きい」が最も高く、特に、20代、30代で高くなっている。
- また保育士等調査の自由記述において、書類作業が多く持ち帰りをしているといった意見や、意見交換会でも書類作業が負担、保育士の仕事内容の明確化が必要といった意見が聞かれた。

まとめと考察

● 休憩、休暇が取れる環境づくりの重要性

- 休憩の取得状況別に満足度をみると、「ほぼ完全に取れている」と、通勤時間に加え、「勤務時間」、「休暇の取りやすさ」、「休憩の取りやすさ」、「職場の人間関係」、「保育士としてのやりがい」の満足度が1点を超え高くなるが、逆に、休憩の取得が「5割程度取れている」以下になると、0点を下回る項目が多くなる。
- 休憩を「ほぼ完全に取れている」と、今後の就業意向として、「現在の施設で保育士として働きたい」が高くなっている。
- 保育士等対象の意見交換会では、休憩時間中に職員会議をしているといった声や、休憩を職員室で取ることで書類作業をしてしまうという声がある一方で、休憩スペースを保育室や職員室とは別に確保することで休憩をしやすい環境づくりを進めているといった声もあった。余裕のある人員配置で休憩をしっかり取得できることの必要性への意見が聞かれた。
- 休憩をしっかり取得できることで、休憩時間に他の職員とコミュニケーションを取る機会も生まれることなども考えられ、休憩をしっかり取得できる環境づくりが、人間関係の向上含め職場の満足度を高めること、ひいては職場定着に重要であると考えられる。
- 有給休暇の取得状況別の満足度についても、有給休暇の取得が「半分未満しか取得できなかった」以下になると、0点を下回る項目が多くなっている。
- 保育士等対象の意見交換会では、連続休暇の取得しやすい環境づくりが必要との意見も聞かれた。
- 保育士等調査では、前述の通り約4割が休憩が十分に取れていない状況であり、有給休暇も「ほぼ取得できなかった」、「半分未満しか取得できなかった」の合計が4割を超えている。一方で、保育施設調査においては、職場定着のために取り組んでいることとして、公営民営ともに、「休憩・休暇を取得しやすい環境の整備」の割合が約7割と上位にあがっており、施設側は取組を進めているものの良い効果が出ていないことも考えられる。
- 働き方改革の中でも、特に休憩や休暇が十分に取得できる環境づくりに取り組むことで、職場満足度の向上や職場定着への効果が大きい可能性が考えられる。

まとめと考察

- 働き方改革の効果に対する意識の相違と、働き方改革が職場満足度、職場定着への効果
 - 多くの施設が働き方改革の取組を実施し、取組に対して、効果があると回答している一方で、保育士等は施設ほど効果を感じておらず、働き方改革の取組に対する認識にずれが生じている可能性が考えられる。
 - 保育士等調査においても、保育補助者の活用による業務負担軽減の効果実感は高く、人手不足を強く感じている現場の保育士等において、保育補助者の活用は効果の実感が強いといえる。
 - 保育士等調査において、働き方改革を実施している場合、すべての満足度の項目が他に比べて高くなっている。また、働き方改革を実施していると、今後の就業意向として、「現在の施設で保育士として働き続けたい」が高く、実施していない場合と比べると大きな差がある。
 - 働き方改革を職員にもしっかりと伝わる形で実施し、職場の働きやすさ向上に向けて取り組むことで、職場の満足度につながり、就業意向にも影響すると考えられる。
- 職場定着のためには、「保育士としてのやりがい」を感じられることが重要
 - 保育士等調査において、今後の就業意向別に、満足度の平均値をみると、「現在の施設で保育士として働き続けたい」場合、すべての項目が他の就業意向の場合に比べて大きく、「保育士としてのやりがい」が1点を超え高くなっている。
 - 一方、「保育士以外の仕事で働きたい・仕事はしない」場合、「保育士としてのやりがい」の満足度が、「現在の施設で保育士として働き続けたい」場合に比べて低く、保育士としてのやりがいを感じられることが就業意向に大きく影響すると考えられる。
 - 満足度の項目別に資質向上のための取組をみると、「保育士としてのやりがい」が「満足・やや満足」の場合には、「自施設内の研修への参加」が「不満・やや不満」に比べて高くなっている。一方で、「仕事量」、「勤務時間」、「休暇の取りやすさ」、「休憩の取りやすさ」が「不満・やや不満」の場合に、研修への参加に関する項目の割合が「満足・やや満足」に比べて高くなっている。
 - 自施設内の研修をはじめとした、研修の参加は、保育士としてのやりがいの向上にもつながり、やりがいの向上により職場定着にも好影響が生まれる可能性が考えられる。ただし、研修については、勤務時間外や休憩時間などを使わずに参加できるような工夫が必要であるとともに、時間を割いて参加してよかったと満足度が得られる研修になるよう研修企画の工夫も求められる。

まとめと考察

- 若手保育士の定着が課題、若い世代が求める職場環境
 - 令和2～4年度の退職者の経験年数別の退職者数をみると、1～3年未満の退職者数が最も多く、1年未満を含めると、約4割が3年に満たない若手保育士となっており、若手保育士の定着が課題になると考えられる。
 - 20代、30代では、現在の就業先に決めた理由において、「福利厚生の実度」が、また退職した理由においても、「職場の人間関係がよくないため」、「時間外勤務が多いため」、「休暇が十分に取れない、取りづらいため」が40代以上に比べ高く、若い世代は、給与面もさることながら、「働きやすい環境」を重視していると考えられる。
- 保育士を目指す学生を増やすための保育士の勤務環境改善と保育士の魅力発信
 - 保育士養成校に通う学生調査では、約半数が保育士としての就職を希望しているが、約2割は保育士としての就職を希望していない、約3割はまだ決めていないという回答であった。
 - 保育士としての就職を希望していない、まだ決めていない理由としては、給与面と休暇の少なさ・取りづらさが上位となっており、保育士を目指す学生を増やすためにも、給与面に加え、働きやすい環境づくりが求められる。
 - 保育士養成校に通う学生へのインタビュー調査でも、給与面のほか、休暇をしっかりと取れるようにしてほしいといった勤務環境に関する意見とともに、就職先の検討にあたり、県内の保育所の保育理念や勤務環境(給与、休暇、シフト等)がまとめたウェブサイトがあるとよいと情報提供に関する意見があった。
 - また、学生の中でも、保育士は給与が低い、大変といったイメージがあるため、学校で保育士の魅力を伝える機会や、中高生の間に保育士を体験できる場があればよいといった意見が聞かれた。